

# 平成 28 年度 事業計画書

平成 27 年 10 月

横浜市立みなと赤十字病院

## 目 次

1	政策的医療	3
1	24時間365日の救急医療	
2	小児救急医療	
3	周産期救急医療	
4	精神科救急医療	
5	精神科身体合併症医療	
6	緩和ケア医療	
7	アレルギー疾患医療	
8	障害児者合併症医療	
9	災害時医療	
10	市民の健康危機への対応	
2	地域医療の質の向上	20
1	医療安全	
2	医療倫理に基づく医療の提供	
3	地域医療連携（医療連携課）	
4	地域医療連携（医療社会事業課）	
5	市民参加の推進	
6	患者サービス	
3	職員体制	37
1	組織図	
2	職員配置予定表	
3	診療科部門責任体制	
4	看護部門責任体制	
5	健診部門責任体制	
6	医療連携部門責任体制	
7	検査・医療技術部門健診部門責任体制	
8	管理部門責任体制	
4	職員研修	46
1	職員研修（医師）	
2	職員研修（看護部）	
3	職員研修（薬剤部）	
4	職員研修（医療技術部門）	
5	職員研修（事務部）	

5	院外からの研修受入れ	57
1	院外学生研修計画（看護部）	
2	院外からの研修受入れ（薬剤部）	
3	院外からの研修受入れ（リハビリテーション科部）	
6	設備維持・点検整備計画	67
1	設備維持計画	
2	設備点検整備計画	
7	医療機器整備計画・外部委託	74
1	医療機器整備計画	
2	外部委託	
8	経営計画	78
1	経営計画	

# 1 政策的医療

## 1-1 24時間365日の救急医療

### 1 事業概要

救命救急センターとして、重症及び複数の診療科領域にわたるすべての重篤な救急患者を24時間体制で受け入れるとともに、横浜市の二次救急拠点病院のA病院として比較的重症度の高い患者を中心に、救命救急センター同様24時間体制で救急隊搬送患者に対応している。

### 2 現状と課題

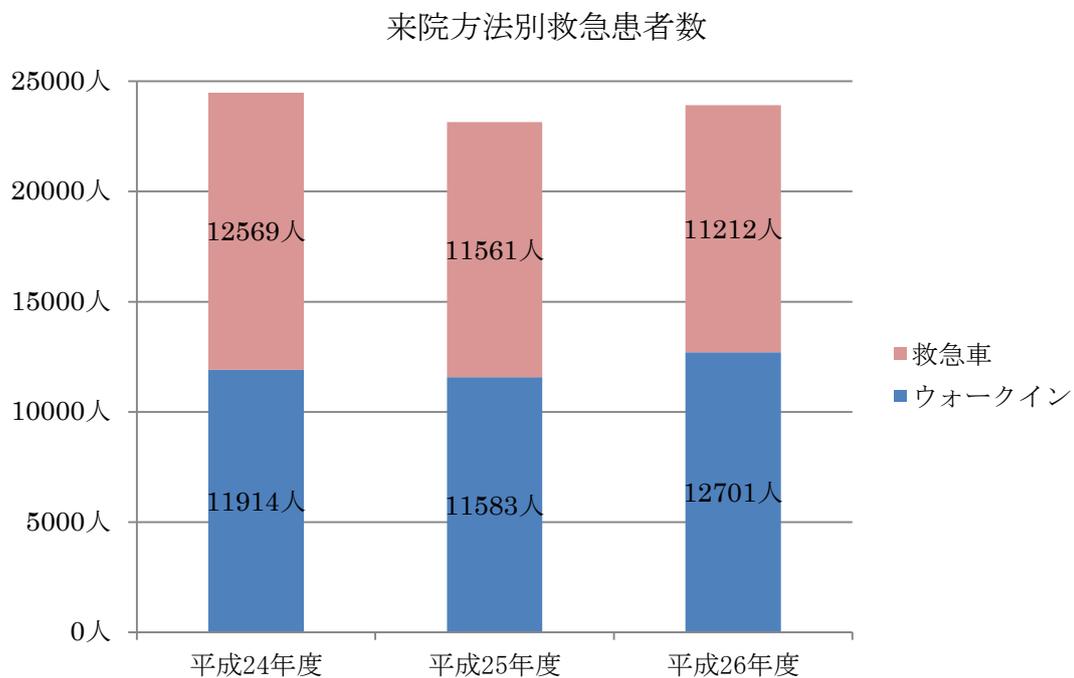
病院開設翌年の平成18年以降、救急車受入台数は横浜市内では断然一位の座を維持し、年間11000～12000の受け入れ台数は国内でもトップクラスとして全国的にも注目を浴びるようになってきている。救急車受入台数のみを目標に医療を行っているものではないが、これまで通り「断らない救急」を実践し続け、この記録を維持するよう努力していく。

「断らない救急」の裏面には、他院では受け入れてもらえない様々な患者に関するトラブルがある。救急外来での暴力患者については引き続き課題ではあるが、26年度より警察官OBを24時間配備するようになりスタッフの負担はかなり軽減した。しかし救急車で来院しても「自分が要請したわけではない」と支払いを拒否する患者や、あるいは夜間・時間外でも日中同様のサービスを要求する患者によるクレーム、さらには単なる現場を混乱させるようなクレームなどは年々増加し、それらに対応させられる職員の疲弊は極限に達している。加えてこれまで同様、独居老人などの退院先の目処が立たない患者も年々増加している。退院できない患者の増加は新たな救急受入を困難にする。これらの問題点が改善されないことには「断らない救急」は早晚続けられなくなる。その対策は一個の医療機関の努力だけでは限界があり、行政のサポートが強く望まれる。

### 3 28年度事業計画

救急車の受け入れ台数やウォークイン患者数はそれぞれ11000～12000人台を維持し、今後は救急外来での医師数を補強して診療内容の高度化を図りたいと考えている。さらに地域の救急医療レベル向上に貢献するために、救急医療に関するoff-the-job-training講習会(JATEC、JPTEC、ICLS、JTASなど)の開催は引き続き積極的に進めたい。

#### 4 データ



## 1-2 小児救急医療

### 1 事業概要

横浜市小児救急制度における「小児救急拠点病院」としての役割を担っている。

具体的には、準夜間帯における小児二次救急、深夜間帯における小児一次救急の受け入れを行う。

### 2 現状と課題

予防接種の改訂により感染症による小児救急患者、入院患者は全国的に減少している(全国平均は20%減少)。当院でも平成24年度から2年度連続して9%減少している。予防接種改訂の恩恵を受けている年齢は3歳以下であり、今後もこの傾向が数年(少なくとも3-5年)は続くと推定される。

小児救急拠点病院の事業展開には多くの小児科医が必要であるが、受診者は減少しており制度維持が危惧される。小児救急拠点病院を維持するには地域の小児保健分野などとの連携も検討する必要がある。

### 3 28年度事業計画

引き続き小児救急拠点病院としての役割を十分に担っていききたい。

- (1) 横浜市の小児救急医療対策事業に参加する。
- (2) 24時間365日の二次小児科救急医療体制を組む。
- (3) 休日及び夜間に小児救急専用ベッド3床以上を確保する。
- (4) 救急医療に携わる小児科医1名以上を常時配置する。
- (5) 非常勤医師を含む10名以上の小児科診療体制の中で小児救急医療を行う。

### 4 データ

	H25年度	H26年度	H27年度 見込み数
小児科救急患者数	3,543件	3,329件	3,200件
うち、入院患者数	353件	411件	400件
救急車受入件数	505件	578件	580件

## 1-3 周産期救急医療

### 1 事業概要

全国的にも数少ない人口が増加している地域である神奈川県において、地域周産期母子医療センターとして、重症や緊急性のある母体搬送の依頼を極力受ける方向で対応する。また、周産期の一般救急にも対応する。

### 2 現状と課題

当院 NICU 受け入れ基準は、在胎 30 週以降、推定体重 1000g 以上となっている。救急は断らないことを原則として対応しているが、受け入れ基準を満たさない場合は高次施設に任せるほかはない。また、救急依頼時に週数不明の急患も年間数件程度あり、対応に苦慮することがある。

搬送元が医療機関であるような場合は、母体搬送の救急も受け入れやすいが、年間数件程度ではあるが妊娠週数や詳細不明の産科救急（特に未受診妊婦が個人で救急車を要請した場合など）は、当院で対応できない様なケースも含まれていることがあり、産科も小児科（新生児科）も安易な受け入れは出来ない。受け入れた結果、再度母体搬送や新生児搬送が必要になると、最初から高次施設で受けてもらった方が予後が良いこともあるからである。しかしながら、やむを得ず受けざるを得ないことや、想定外の状況（本人の申告した妊娠週数が全く異なっていた場合など）であることがあり、一医療機関だけではなく、地域のネットワークでこのような症例には対応することが必要と考える。

また、高次医療機関において NICU が増床されたことによると考えられるが、母体搬送の依頼も多くなく、受け入れがやや減少傾向～昨年並みとみられる。

### 3 28 年度事業計画

母体搬送は地域周産期母子医療センターを取得した平成 24 年度下半期より増加傾向にあったが、母体搬送依頼が少ないため受け入れも伸びておらず、平成 27 年度は 20 件程度となる見込みである。平成 28 年度も同様に 20 件ほどの母体搬送受け入れを見込んでいる。

#### 4 データ

平成23年度～平成27年度（上半期）の母体搬送受入数及び新生児搬送受入数													
母体搬送受入													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成23年度	1	0	1	3	1	2	2	0	1	0	0	2	13
平成24年度	0	0	1	0	0	1	2	3	3	0	4	0	14
平成25年度	0	5	2	3	1	2	1	1	2	0	2	0	19
平成26年度	4	1	1	5	3	0	3	3	0	1	0	2	23
平成27年度	3	3	1	1	1	0							9
新生児搬送受入													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成23年度	0	1	1	1	3	2	0	2	0	2	0	0	12
平成24年度	4	1	1	3	1	1	0	0	1	0	0	1	13
平成25年度	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	4
平成26年度	0	0	2	2	0	0	1	1	1	0	0	0	7
平成27年度	0	2	0	0	0	0							2

#### 5 その他

周産期救急を可能な限り多く、安全に受け入れるには救急隊員からの信頼性の高い情報が必要になる。妊娠週数や詳細な情報が得られれば、未受診妊婦の受け入れなども、対応しやすいと考える。

## 1-4 精神科救急医療

### 1 事業概要

「神奈川県精神科救急医療に関する実施要綱」等に基づき、4 縣市（神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市）が協調して、精神科救急医療事業を行っている。当院は、上記要項が定める「基幹病院」の一つとして、「二次救急」（医療保護入院）及び「三次救急」（措置入院）の受入れを行っている。

### 2 現状と課題

- ・ 基幹病院としての役割を十分に果たしていると考えている。
- ・ 年間 40-60 例、行政を介した精神科救急患者を受け入れている。
- ・ 昨年度の措置入院率は、84.6%であった。
- ・ 2 次救急の症例で、情報が不足しているケースがある。
- ・ 後方転送の受入に時間を要するケースがあり、速やかな調整が必要である。
- ・ 救急部（身体）を受診した精神疾患の患者の中で、措置要件を満たす症例が存在するが、精神科救急のルートにのせることが難しい。
- ・ 事業を継続するには、精神保健指定医の数を維持することが必要。

### 3 28 年度事業計画

引き続き、神奈川県精神科救急医療事業に参加し、役割を担っていく。

- (1) 夜間・休日・深夜の救急患者（二次、三次）の受け入れを行い、そのための保護室 3 床を確保する。
- (2) 受入時間帯において精神保健指定医を配置する。
- (3) 夜勤の看護体制は、最低でも看護師 3 名を含むものとする。
- (4) 精神保健福祉士（兼任可）を配置する。

### 4 データ

年度		受入 数	入院/外来		入院形態		転帰	
			入院	帰宅	措置	医保	転院	退院
H24 年度	3 次	51	39	12	37	2	33	6
	2 次	7	7	0	/	7	5	2
H25 年度	3 次	44	32	12	30	2	28	4
	2 次	9	9	0	/	9	9	0
H26 年度	3 次	26	23	3	22	1	20	3
	2 次	13	13	0	/	13	9	3
H27 年度		40～ 60						

## 1-5 精神科身体合併症医療

### 1 事業概要

「神奈川県精神科救急医療に関する実施要綱」等に基づき、4 縣市（神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市）が協調して、精神科身体合併症転院事業を行っている。当院は県内 3 つの受入病院の一つとして、10 床を担当し、精神病院に入院中の患者に発生した身体合併症の受入を行っている。

### 2 現状と課題

- ・ 役割を十分に担っていると思われる。
- ・ 年間 60-80 例を受け入れている。休日や時間外の症例を含めるとさらに受入数は多い。
- ・ 症例のほとんどが精神科病棟に入院している。
- ・ 身体疾患の種類は多岐におよび、介護度が高い患者が多く、精神科病棟看護師の負担は大きい。
- ・ 個室を必要とする患者が多いため、ベッドコントロールに苦慮している。
- ・ 日勤帯の遅い時間の入院も多く、適切なタイミングでの依頼をお願いしたい。

### 3 28 年度事業計画

身体科各科との連携を密にしながら、従来通り、滞りなく運用していく。

- (1) 神奈川県内の精神病院等に入院する身体合併症患者を横浜市の要請に基づいて当院において受け入れ、必要な医療を行う。
- (2) 精神科病床50床のうち10床を合併症患者用とする。

### 4 データ

		H25 年度	H26 年度	H27 年度
受入患者数		79 人	66 人	60-80 人
入院患者数		57 人	43 人	
平均在院日数		22 日	24.7 日	
転帰内訳	元の病院への転院	52 人	38 人	
	元の病院以外への転院	1 人	4 人	
	退院(在宅)	1 人	0 人	
	その他(死亡/入院中)	3 人	1 人	

## 1-6 緩和ケア医療

### 1 事業概要

がん患者がその人らしく過ごせるように、多職種が協働してのチーム医療を行って、身体や心のつらさをやわらげる＝緩和ケアを目指します。がんと診断された時から主治医を中心にした緩和医療を行えるように、緩和ケアチームが支援を行います。抗癌治療が困難となった段階で入院が必要になった時、緩和ケア病棟において、専門のスタッフが身体や心のつらさをやわらげる治療やケアを行います。診断早期から、地域の医療機関と連携し、切れ目のない医療が提供できるよう、緩和医療の普及のため、緩和ケア研修会や講演会、「みんなの緩和ケア勉強会」を通して緩和ケアの啓蒙・普及を図っていきます。

### 2 現状と課題

現在、緩和ケア内科の医師は、専従医1名と、半日(日本緩和医療学会専門医)・1日(同暫定指導医)の応援非常勤医師各1名の構成です。応援医師の指導の基で緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、緩和ケア専門外来等に対応しています。休日・夜間等の急患は、各診療科の応援を受け、緩和ケア病棟においても、平成27年5月から各科主治医がそのまま転科せずに受け持つ体制となっております。平成26年度、病棟稼働率は74.7%でした。

また、緩和ケアチーム、緩和ケア病棟での質の向上、外来枠の増加等、国の目指す、緩和ケアセンター化構想実現のためにも専従スタッフの増員が永年の課題です。

### 3 28年度事業計画

- ・緩和ケア病棟、緩和ケアチームの専従医の確保および診療体制の安定化
- ・緩和ケア病棟の稼働率の向上
- ・各科協力のもとに緩和ケア病棟の安定した運営
- ・緩和ケアチームによるチーム医療の推進
- ・緩和ケア外来の充実、拡大
- ・院内外での研修会、講演会の開催

#### 4 データ

##### [緩和ケア病棟]

	25年度	26年度	27年度(見込み)
入院患者数	224名	231名	328名
退院患者数	214名	224名	296名
死亡患者数	162名	197名	250名
緩和ケア病棟平均在院日数	31.1日	30.0日	26.5日

##### [緩和ケアチーム]

	25年度	26年度	27年度(見込み)
新規患者数	145件	106件	162名
延べ件数	2646件	1513件	2642名
麻薬管理加算	126名	126名	134名
入院精神療法加算	43名	43名	44名

#### 5 その他

緩和ケア研修会、緩和ケア講演会、「みんなの緩和ケア勉強会」を開催して緩和医療の啓蒙や知識・意識の共有を目指し、がん患者に対して、切れ目のない通院・入院・在宅医療での緩和医療の提供のために、職種を超えて、院内外の医療施設との交流を深めるとともに、連携の強化を図っていききたい。

## 1-7 アレルギー疾患医療

### 1 事業概要

アレルギーセンター事業は、アレルギー・免疫疾患に関する診療、相談・情報提供、情報発信、啓発活動、臨床研究の5本柱からなる。

### 2 現状と課題

#### 1) 診療

アレルギー・免疫疾患の診療に携わるアレルギー内科（成人の気管支喘息・咳喘息、食物・薬物アレルギー、アナフィラキシーなど）、アレルギー小児科（小児の気管支喘息、食物・薬物アレルギー、アナフィラキシー、アトピー性皮膚炎など）、皮膚科（アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、乾癬など）、耳鼻咽喉科（アレルギー性鼻炎、花粉症など）、眼科（アレルギー性結膜炎等）、呼吸器内科（過敏性肺炎、好酸球性肺炎など）、膠原病リウマチ内科（関節リウマチ、膠原病など）の7診療科および関連する歯科口腔外科、さらにコメディカル、事務部の委員により構成される「アレルギーセンター運営委員会」を毎月定期的に開催することによりセンターの運営方針を協議・決定している。同委員会に併設されている「合同カンファレンス」の実施により、複数科にわたるアレルギー・免疫疾患の横断的診療レベルの向上を目指している。患者数の多い気管支喘息と食物・薬物アレルギーについては、別途「喘息カンファレンス」と「食物・薬物アレルギーカンファレンス」を各々隔月で開催しており、問題症例の検討および最新医療情報の取得に努めている。アナフィラキシー原因物質の特定などの専門的診療を実施している医療機関は数少なく、当センターは横浜市におけるアレルギー・免疫疾患診療の最後の砦として大学病院や他の総合病院からの紹介も多く、緊急時に患者が実施するアドレナリン自己注射（エピペン®）の処方数は横浜市で最も多い。27年9月現在、アレルギー科、小児科、皮膚科、呼吸器内科の4科が（社）日本アレルギー学会、膠原病リウマチ内科が（社）日本リウマチ学会の認定教育施設に認定されており、アレルギー内科に加えてアレルギー小児科と皮膚科のアレルギー診療業務も一部は2階のアレルギーセンターで実施中である。さらに、当センター関連職員として、アレルギーセンター保健師をはじめとする6名が日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会の認定小児アレルギーエドゥケーター資格を取得しており、この人数は神奈川県立こども医療センターを上回っている。

アナフィラキシーを起こすような重症成人食物アレルギーについては、

横浜市内での受入機関が当センターのアレルギー科と横浜市立大学附属病院皮膚科、横浜市立大学附属市民総合医療センター皮膚科の3施設に限られており、多くの問題症例が集中する。ところが、アレルギー科は約800人の外来定期通院患者に対して常勤医が2名しか確保されておらず、1名の医師が約400人の患者に対応している。また、医師が実施する気道過敏性試験、皮膚反応試験（プリックテスト、皮内テスト）、薬物経口負荷試験等は患者1人に30分から2時間を要する。これらの理由により、連日の午前・午後にわたる外来診療と検査実施にもかかわらず、アレルギー科の外来患者の予約間隔は3ヶ月と長くなっている。また、重症・難治性の喘息症例は各種専門的検査（スパイログラフとモストグラフによる気道可逆性試験、呼気一酸化窒素の測定など）や喘息長期管理のための教育と指導（全ての喘息患者への吸入指導、小児喘息患者と両親への病態説明など）を外来で実施中であるが、その特殊性から中央検査部技師や一般看護師では実施が困難であり、アレルギーセンターで訓練を受けた看護師に負担を強いていることが患者の待ち時間が長くなる最大の要因となっている。当面、喘息診療の要である吸入指導に要する保健師の負担を軽減するために、病薬連携を構築するための試みを終了したが、本格的運用は未だである。

## 2) 相談・情報提供

成人・小児喘息相談（横浜市健康福祉局保健政策課の事業）からの委託で、毎月1回（5人ずつ）実施中である。医師1名、看護師1名、検査技師1名が問診、呼吸機能検査、診察を担当し、1人の相談者に対して60分をかけて対応している。

## 3) 情報発信

センターの情報をホームページ（HP）上に公開しているが、担当者が存在しないため更新が不十分であり、今後強化が必要である。喘息・花粉症などの自己管理を目的とする粉塵・花粉・気象観測データのHPへの自動リアルタイム（数分毎の更新）アップロードには、センターの研究補助員および提携業者が24時間体制で監視・検証を実施している。

## 4) 啓発活動

27年度は一般市民を対象とする「横浜市民フォーラム」（2回）、みなと免疫アレルギー講演会（2回）、当センターに事務局を置く「横浜環境アレルギー研究会」の講演会（1回）、当院職員と地域連携開業医を対象とする「みなとセミナー」（2回）、当院通院患者を対象とする「成人喘息教室」（3回）、「小児喘息・アレルギー教室」（3回）、「関節リウマチ教室」（5回）、夏季小児喘息・アレルギーキャンプ（1回）を実施済みおよび予定である。児童の食物アレルギーに関する全般的な知識の普及を目的とする区役所、保

育園、幼稚園、小学校等からの教育研修会の依頼は 38 回におよび、当センターのアレルギー専門小児科医、保健師の出張が多い。

#### 5) 臨床研究

市内 6 ヶ所および市外 1 ヶ所に設置した粉塵・花粉・気象観測機器を用いた環境データ解析 (EARTH) によるアレルギー疾患の予防、および IT 通信機器を用いた喘息遠隔医療 (ARMS) による喘息予報は通常予報に加えて「個別予報」システムを今年度中に開始予定である。センターの研究補助員 1 名が中心となり解析作業を実施すると共に、これらの研究実施に関する他施設の共同研究者や提携業者との毎月 1 回の定例会議を開催している。

### 3 28 年度事業計画

#### 1) 診療

危急の課題はアレルギー科常勤医師の確保である。また、有病率 5%とされる成人喘息については外来定期通院患者が膨らみすぎるのを回避する目的で、さらなる地域病診連携を拡大する必要がある。喘息診療の要である吸入指導に要する保健師の負担を軽減するための病薬連携システムを中区薬剤師会の協力で構築予定である。

#### 2) 相談・情報提供

継続予定である。

#### 3) 情報発信

ホームページの強化を図るべく今年度中に事務員の増員予定である。

#### 4) 啓発活動

教師や保育士に対するアレルギー指導の業務拡大傾向に備えて、もう 1 名のアレルギー専門小児科医師の協力を確保する。また、今後は市民フォーラムの回数を増やす必要があるが、当院および横浜市からの人的支援が不可欠である。

#### 5) 臨床研究

実施中の EARTH 研究については今年度中に「個別喘息予報」を開始予定である。センターの常勤医師を増員することにより、国立病院機構相模原病院や理化学研究所との共同研究を計画する。

#### 4 データ（平成 25～27 年度比較）

	25 年度	26 年度	27 年度(見込)
1) 外来アレルギー患者(延べ)数	16,317 人	16,176 人	18,228 人*
2) 講演会	8 回	6 回	5 回
3) セミナー	3 回	3 回	2 回
4) 市民フォーラム	3 回	1 回	2 回
5) 患者教室	1 回	11 回	11 回
6) 小児喘息キャンプ	1 回	1 回	1 回
7) 成人・小児喘息相談	49 名	48 名	49 名
8) 誌上発表	15 件	17 件	20 件
9) 学会発表	30 件	24 件	30 件
10) 新薬開発治験	6 件	11 件	13 件
11) 自主臨床試験	21 件	17 件	27 件

※今年度より患者数の抽出方法を変更したため、昨年度より増加となった。

平成 27 年 10 月

文責 アレルギーセンター長 中村陽一

## 1-8 障害児者合併症医療

### 1 事業概要

当院において行われる障害児者への医療提供が円滑に行われることを目的とし、障害児者医療検討委員会を開催し、その内容を検討する。

### 2 現状と課題

旧横浜市立港湾病院からの継続医療患者への適切な医療の提供、障害児者医療への職員の研修啓発に努める。また、地域の障害児者医療を担う医療機関との連携を図っていく。

横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムの協力病院として横浜市の障害児者医療に引き続き貢献する。

### 3 28年度事業計画

- ・継続医療患者への医療提供
- ・地域の障害児者医療を担う医療機関との連携
- ・職員への研修啓発のため、施設見学を企画
- ・横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムへの協力

### 4 データ

	H25年度	H26年度	H27年度 (上半期)
入院患者延べ人数	234名	260名	40名
入院患者実人数	11名	12名	5名
1患者あたり入院回数	1～10回	1～5回	1～2回
年齢	6～43歳	2～40歳	5～26歳

## 1-9 災害時医療

### 1 事業概要

災害時の市民の健康危機管理を実施するため、災害対策本部を設置して病院内外の情報を収集し病院機能の維持に努め、状況に応じて傷病者の受け入れを行う。

また、大規模災害や局地災害に対し、状況に応じて救護班やDMATの派遣を行う。

### 2 現状と課題

平成27年度も救護関係の研修会や訓練に積極的に参加した。特に、平成24年度から実施している、第三管区海上保安本部と日本赤十字社神奈川県支部の協定に基づいた合同訓練では、救護班要員が巡視船に宿泊して救護活動を実施し、海上で救出された傷病者をヘリで当院に搬送したり、救護班員を当院船着場から横浜海上防災基地へ移送するなど、当院の機能を活用した訓練を実施した。今後も海に面した地域特性を考慮し、様々な対応ができるよう訓練、研修を行っていく。

### 3 28年度事業計画

- ・災害対応マニュアルの見直し
- ・赤十字及び連携機関の防災訓練、研修への参加

### 4 データ（主な救護資機材等）

常備救護班7個班、DMAT1チーム、DMAT-L2チーム、救護班医療セット1式、DMAT医療セット1式、NBC災害除染セット1式、ドラッシュ Tent1式、エアー Tent1式、イージーアップ Tent2式、日赤業務無線機等18台、衛星電話3台、救急車2台、ドクターカー1台、職員用非常食1000人分×3日、救護班・DMAT派遣用非常食42セット、簡易ベッド540台

## 1-10 市民の健康危機への対応

### 1 事業概要

「新型インフルエンザ等感染症」による市民への健康危機へ対応するため、横浜市新型インフルエンザ対策医療関係者協議会の方針に則り、診療体制等を整備する。

### 2 現状と課題

新型インフルエンザ等発生時における帰国者・接触者外来の開設に関し、テントおよび空調設備・電源を整備している。26年度2回に引き続き27年度に1回シミュレーションを行い、適切な外来運営について検討している。

資器材として人工呼吸器、ファン付き防護具等を整備している。

医療従事者予防内服用抗インフルエンザ薬は協議会の方針に基づき薬局にて循環備蓄とした。

帰国者・接触者外来のシミュレーションなどを通じて、運用体制等について、順次改善していく必要がある。

### 3 28年度事業計画

横浜市新型インフルエンザ対策医療関係者協議会の決定に基づき、資器材整備を進めていくとともに、院内の運用体制についても検討の予定である。

## 2 地域医療の質の向上

## 2-1 医療安全

### 1 事業概要

医療安全推進課は、当院における医療安全対策と患者の安全確保を推進するために、設置されている医療安全推進室の主管課として、医療安全に関する業務ならびに感染予防・感染対策に関する業務を担う。

### 2 現状と課題

#### (1) 現状

- ア 安全文化の醸成：医療安全・感染対策に関する外部・院内講師による全職員対象の講演を実施している。1回あたりを短時間とし、フォローアップも含めた開催回数を増やすことで参加しやすい状況になった。また、DVDの貸し出しにより、個々の都合に合わせた研修受講が可能である。各部署・診療科に出席状況とDVD貸し出しのお知らせを行うことで各部署・診療科では出席率を把握する機会になっている。講演会の評価は、アンケートと小テストの結果より行っている。
- イ 事務局を担当する5委員会の開催にかかわる業務、議事録の作成・管理、委員の出席状況の確認を行っている。欠席者には議事録の供覧などによりフォローを行っている。
- ウ 安全・感染に関する事例の分析・対策を委員会等で行い、決定事項等を院内LANで周知している。
- エ 安全・感染に関するマニュアル類の更新作業を行っている。
- オ 院内患者急変時のシミュレーション研修を実施している。
- カ ICTによる定期的な院内ラウンドの実施
- キ 帰国者・接触者外来シミュレーション実施
- ク 感染防止対策加算、地域連携加算における他施設との相互ラウンドおよびカンファレンスを行っている。

#### (2) 課題

- ア 安全・感染に関する研修会への出席率の向上
- イ 委員会の恒常的な欠席者を出さないための働きかけ
- ウ マニュアル類の周知

### 3 28年度事業計画

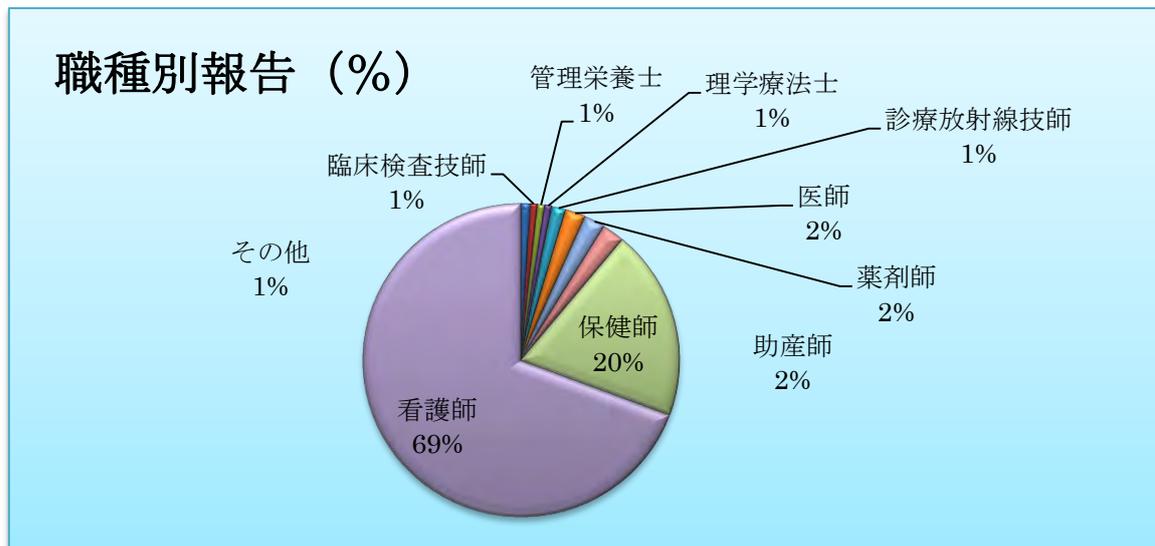
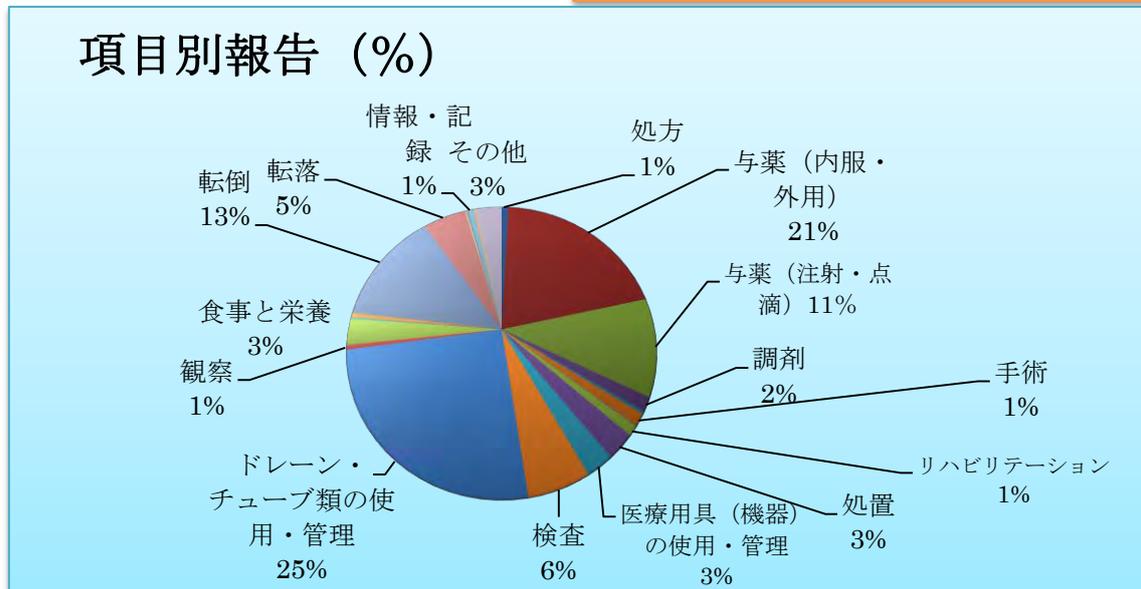
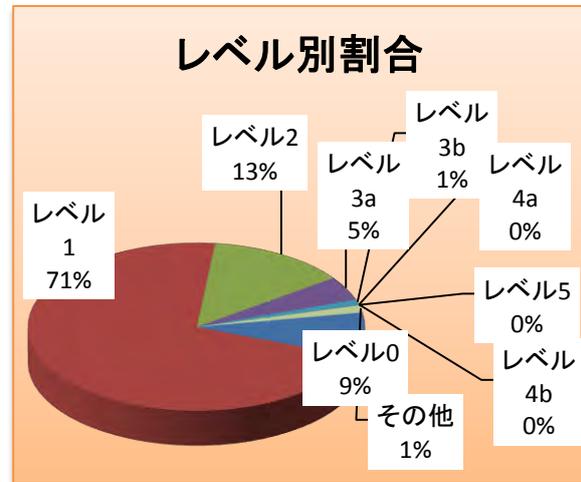
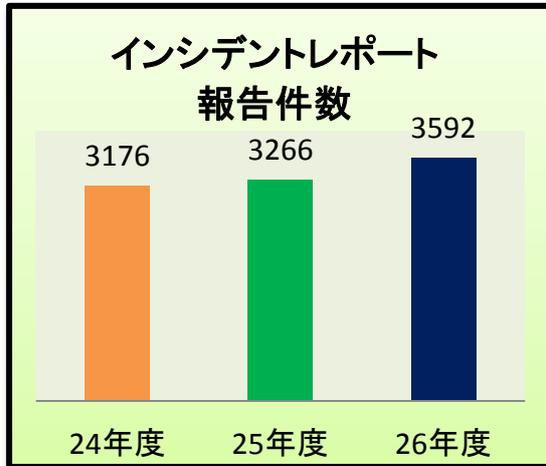
#### (1) 安全文化の醸成

医療安全・感染に関する研修会の参加率向上と内容理解の促進

- (2) 事務局を担当する5委員会の開催にかかわる業務の遂行
- (3) マニュアル類の更新管理と周知
- (4) インシデントレポートの提出促進
- (5) コードブルーシステム活用シミュレーション
- (6) 定期的なラウンド実施

#### 4 データ

インシデントレポート報告件数等



## 2-2 医療倫理に基づく医療の提供

### 1 事業概要

当院において行われる医療行為及び医学研究が倫理的、社会的観点から適切に行われることを目的とする。医療行為及び医学研究をめぐる生命倫理上の事項、および具体的な個々の医学研究の実施に関して申請のあった事項について審議する。

### 2 現状と課題

#### (1) 開催状況

##### 【平成26年度】

	開催日	申請事案
1	平成26年5月27日	11件
2	平成26年7月7日	6件
3	平成26年9月5日	9件
4	平成26年11月7日	11件
5	平成27年1月9日	11件
6	平成27年3月12日	8件

##### 【平成27年度】

	開催日	申請事案
1	平成27年5月27日	13件
2	平成27年7月22日	16件
3	平成27年9月14日	8件
4	平成27年11月13日	13件
5	平成28年1月15日	未定
6	平成28年3月11日	未定

#### (2) 委員構成

##### 【平成26年度】

	委員名	役職
1	小森 博達	委員（副院長）
2	中村 陽一	委員長（アレルギーセンター長）
3	高橋 誠司	外部委員（元神奈川県立保健福祉大学教授）
4	田中 治	外部委員（弁護士）
5	山本 晃	委員（血液内科部長）
6	太田 一樹	委員（内分泌内科部長）
7	伊藤 理	委員（形成外科部長）
8	田淵 典之	委員（心臓血管外科部長）
9	杉田 光隆	委員（外科部長）
10	猪股 克彦	委員（薬剤部長）
11	福家 修子	委員（看護師長）
12	蔭山 智彦	委員（総務課長）

##### 【平成27年度】

	委員名	役職
1	小森 博達	委員（副院長）
2	中村 陽一	委員長（アレルギーセンター長）
3	高橋 誠司	外部委員（元神奈川県立保健福祉大学教授）
4	田中 治	外部委員（弁護士）
5	山本 晃	委員（血液内科部長）
6	太田 一樹	委員（内分泌内科部長）
7	伊藤 理	委員（形成外科部長）
8	田淵 典之	委員（心臓血管外科部長）
9	杉田 光隆	委員（外科部長）
10	猪股 克彦	委員（薬剤部長）
11	福家 修子	委員（看護師長）
12	蔭山 智彦	委員（総務課長）

### 3 28年度事業計画

概ね2か月毎に開催予定。

## 2-3 地域医療連携（医療連携課）

### 1 事業概要

医療連携センターの入口業務を担う。地域医療機関の窓口として顔の見える連携を心がける。レベルの高い急性期医療を提供するため、また地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センターに指定され、ますますの地域の医療機関との医療機能の分担と連携を強化し、紹介率・逆紹介率の向上に努める。

また、地域医療支援病院として、近隣診療所を支援する他、近隣医師会、登録医等関係医療機関との合同研究会やセミナーを開催し、地域医療の質向上を図る。

### 2 現状と課題

地域医療支援病院として、病院経営のためにも紹介率・逆紹介率を維持することは必須である。多くの救急患者を受け入れる3次救急の医療機関として、近隣4区の情勢を勘案し、また、超高齢化社会を見据えた「地域医療構想」を踏まえながらスムーズな医療連携を、行政や医師会、関係医療機関等と地域全体で構築することが課題となる。

### 3 28年度事業計画

#### 1) 紹介率・逆紹介率

開院後、紹介率・逆紹介率、紹介件数・逆紹介件数は順調に推移

#### 2) 関連医療機関

登録医

横浜市南部保健医療圏医療機関

各種地域医療連携パス連携医療機関

横浜（南）がん病病連携病院

#### 3) 地域医療機関との交流

地域医療支援委員会…年4回

大腿骨頸部骨折地域医療連携パス合同委員会…年3回

脳卒中地域医療連携パス合同委員会…年3回

みなとセミナー…年12回

4区医師会・みなと赤十字病院合同研究会…年1回

地域医療連携推進委員会…年6回

地域連携に携わる交流会（南部医療圏）…年6回

日赤医学会総会…年1回

日赤東部ブロック医療連携研究会…年1回

日赤東部ブロック地域医療支援病院を考える会…年1回

4) その他

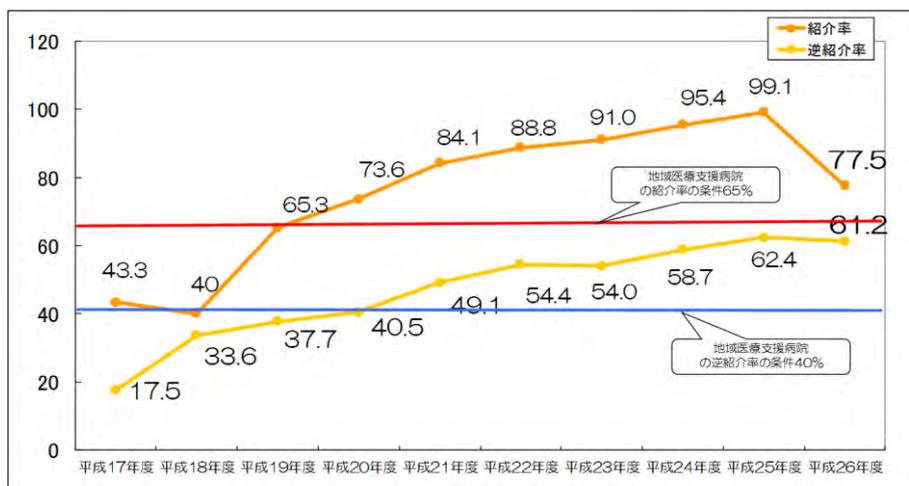
逆紹介の推進

疾患別地域医療連携パスの推進

みなとからの風(地域医療機関向け広報誌)発行…年3回

4 データ

紹介率・逆紹介率推移  
(年度推移)

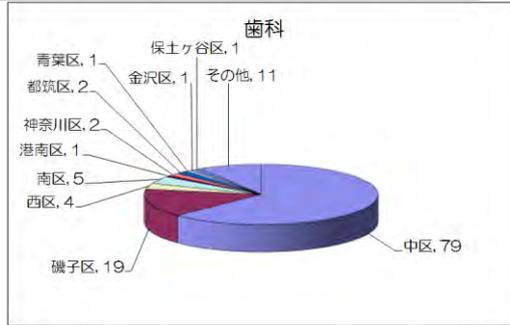
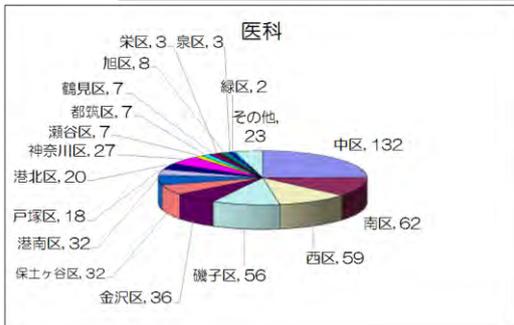
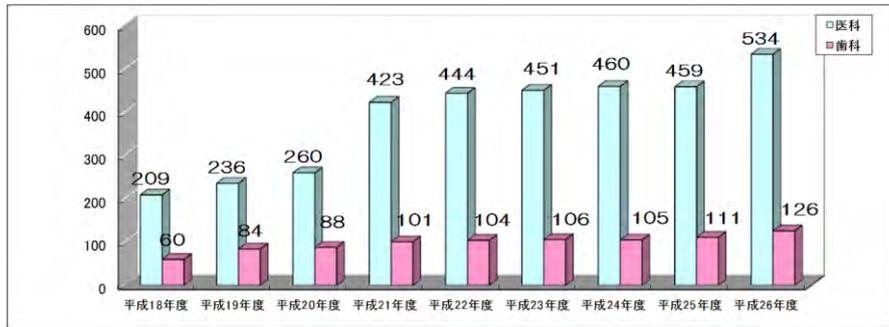


※平成26年4月から紹介率の計算方法が変更となる

紹介件数・逆紹介件数推移  
(年度推移)



### 登録医登録状況



## 2-4 地域医療連携（医療社会事業課）

### 1 事業概要

地域が求める医療機能を効果的・効率的に果たし、医療を必要とする患者・家族が安心して生活できるように、病院内および地域医療福祉機関等との連携・協働を推進し、地域住民に対する生活の質の向上に努めている。患者・家族が希望する医療やケアを提供するためには、病院完結ではなく、その人らしい生活ができるよう将来を見据えた支援が必要になってくる。地域医療機関をはじめとする保健福祉機関や行政機関と密接な連携をとり、入院・外来を問わず市民が安心して医療を受けられる体制の構築を目指している。

### 2 現状と課題

#### 1. 療養・福祉相談の実績報告（資料①）

算定関連では、退院調整加算が大幅に増加した。病棟看護師による算定を開始した成果である。病棟看護師が早期から退院支援を患者・家族に宣言し、積極的に退院支援に介入することで、病院全体で取り組む風土が形成しつつあると考える。大腿骨頸部骨折地域連携パスの算定は、42件から16件と減少した。対策として、転院した病院の上位3施設（横浜市立脳卒中・神経脊椎センター・佐藤病院・磯子中央病院）に加入の依頼を行ったところ、今年度より連携施設に加わって頂き8施設となった。引き続き連携の強化を図っていく。昨年度から開設した包括ケア病棟への転院は、10件であった。病院機能分化を進めていく中で、地域包括ケアシステムにおいて地域医療機関から期待をされている包括ケア病棟と地域医療・福祉機関や行政機関との連携が、今後の課題である。

#### 2. 地域関係機関との取り組み（資料②）

#### 3. 専門職育成への取り組み

- ①平成27年度は14名の看護学生、社会福祉学生1名の実習を受け入れた。
- ②平成27年度は、看護部のクリニカルラダー「退院支援コース」の研修の一環として、体験学習を13名受け入れた。
- ③神奈川県看護協会 平成27年度地域連携のための相互研修会から院外看護師10名受け入れた。
- ④がん相談支援センター相談員基礎研修（1）（2）5名（3）1名、認定がん相談員取得に必要な研修3名、HIVカウンセリング研修2名が受講。
- ⑤第56回日本神経学会学術大会1名、第51回日本赤十字社医学総会2名が参加した。

#### 4. 専門職としての研鑽(詳細は 2 で挙げた資料の通り)

医療協、神奈川県看護協会 神奈川県 MSW 協会、神奈川県 PSW 協会や、その他自治体主催による各種研修を積極的に受講し、有資格者としての自己研鑽を図った。また、神奈川県 MSW 協会研修委員、神奈川県 PSW 協会研修委員など、資格の専門性を生かし幅広い活動を通して業務に反映させた。

#### 5. 院内他部署、あるいは地域関係機関に向けた取り組み

- ①神経内科医師と横浜市総合リハビリテーションセンターと協力し ALS 患者支援システムの運用を開始した。
- ②「中区認知症を考える会」に院内の多職種が参画し、地域医療関係者と活発な意見交換を行った。
- ③地域関係者対象に皮膚・排泄ケア認定看護師による研修年 1 回、口腔ケアサポートチーム（歯科医師・摂食・嚥下機能障害看護認定看護師・歯科衛生士）による研修年 2 回を地域で開催する。
- ④横浜市在宅医療連携拠点事業を展開している、中区在宅医療相談室と磯子区在宅医療相談室と協定を締結し、連携を図っている。
- ⑤脳卒中地域連携パスを県内統一の運用を開始した。
- ⑥大腿骨頸部骨折地域連携パスの連携施設が 3 施設加入し、連携の強化を図った。
- ⑦西区・中区・南区に訪問し、意見交換を行い、連携強化を図った。

### 3 28 年度事業計画

- ① 退院支援マニュアルに沿った退院支援を病院全体で推進し、老いや病気を抱えた患者や家族に対し、包括的な支援を実施していく。
- ② 大腿骨頸部骨折地域連携パス／脳卒中地域連携パスについて運用の見直しを検討し、引き続き院内外の連携を深め、円滑な運用を進める。
- ③ 政策的医療の一つでもある精神科救急医療／身体合併症システムの円滑な運用に向け、院内外との連携を深める。
- ④ みなとセミナー「よりよい在宅療養支援をめざして part10」を実施する。
- ⑤ がん拠点病院に必要とされるがん相談支援センターの体制を、相談員研修の参加などにより強化していく。
- ⑥ 横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムの院内外との連携を進める。
- ⑦ 在宅医療連携室との連携を推進していく。

#### 4 データ（資料③のとおり）

# 医療社会事業課 平成26年度報告書(資料①)

平成26年度分  
横浜市立みなと赤十字病院

## (1)取扱人数

区分	人数	(前年度比較)
年度実人数	6422 人	- 403
年度延人数	29611 人	- 516

区分	実人数	
新規介入ケース	入院	3789 人 + 309
	外来、その他	2303 人 + 259
終了ケース	6148 人	+ 674

精神科入院相談件数		件数	
		311 件	- 58
がん相談	実件数	1903 件	+ 1,777
	延べ件数	4935 件	
	(対面)	2216 件	
	(電話)	2144 件	
	(その他)	571 件	

### \*算定

退院調整加算	14日以内(340点)	168 件	+ 67
	15日～30日(150点)	327 件	+ 136
	31日～(50点)	314 件	+ 183
介護支援連携指導料(300点)	241 件	+ 115	
退院時共同指導料2(300点)	36 件	+ 23	
3者以上退院時共同指導加算(2000点)	8 件	+ 7	

### \*地域連携パス実施状況

大腿骨頸部骨折パス	16 件	- 26
脳卒中パス	57 件	+ 12

## (2)新規ケースの紹介経路

区分	実件数	
医療職Ⅰ	642 件	+ 115
医療職Ⅱ	3 件	+ 2
医療職Ⅲ	1918 件	- 448
一般職Ⅰ	125 件	+ 15
一般職Ⅱ	6 件	- 1
本人	503 件	- 5
家族・親戚縁者	695 件	+ 88
院外関係者	2120 件	+ 754
近隣者・知人	1 件	- 1
ソーシャルワーカー	79 件	+ 49
合計	6092 件	+ 568

## (3)取扱内容

区分	実件数	
家族関係の問題	352 件	- 27
介護・療養生活上の問題	1800 件	- 12
経済に関する問題	527 件	+ 20
日常生活上の問題	566 件	- 49
就労・職場の問題	47 件	+ 26
教育の問題	1 件	- 4
医療の確保に関する問題	2308 件	+ 153
人権に関わる問題	69 件	+ 28
心理・情緒的問題	402 件	- 50
制度活用に関する問題	1056 件	+ 148
その他	1880 件	+ 269
合計	9008 件	+ 502

## (4)援助方法

方法		延件数	
面接	本人	7772 件	+ 511
	家族等	4444 件	- 197
電話	本人	329 件	+ 108
	家族等	5629 件	+ 783
訪問	本人	37 件	+ 24
	家族等	56 件	+ 52
同行・同伴・代行		36 件	- 30
文書(電子メール、FAX含む)		2782 件	+ 348
情報収集		18173 件	+ 263
院内協議・院内カンファレンス		20863 件	+ 2,096
院外協議・院外カンファレンス		18404 件	+ 3,547
合同カンファレンス		432 件	+ 176
その他		113 件	- 2,075
合計		79070 件	+ 5,606

## (5)相談援助調整内容

内容	延件数	
家族関係に関すること	1337 件	- 115
在宅介護に関すること	7839 件	+ 1,320
療養生活に関すること	11259 件	+ 406
経済的問題に関すること	1528 件	- 361
就労・職場環境に関すること	96 件	+ 25
就学・教育環境に関すること	36 件	+ 9
虐待・暴力・人権に関すること	343 件	+ 51
受診・受療に関すること	2763 件	+ 826
転院に関すること(医療機関)	9740 件	+ 1,030
他施設利用に関すること	2183 件	+ 117
心理・情緒的問題に関すること	1381 件	- 187
他福祉関係法に関すること	1803 件	+ 50
高額療養費に関すること	339 件	+ 116
その他	2630 件	+ 442
合計	43277 件	+ 3,729

## (6)転帰先

区分	実件数	
一般病院	272 件	+ 46
包括ケア	10 件	
回復期リハビリテーション病院	209 件	- 9
療養型病院	72 件	- 34
精神病院	118 件	- 7
介護老人保健施設	69 件	+ 11
特別養護老人ホーム	35 件	+ 1
有料老人ホーム	74 件	- 21
グループホーム	6 件	- 7
在宅	1041 件	- 172
死亡	168 件	- 25

## 平成26年度出張記録(資料②)

### ①地域連携分野

内容	回数
精神医療審査会	12
障害程度区分認定審査会	11
精神医療審査会に関する意見聴取	7
医療観察法における事件のカンファレンス	7
医療観察法における事件の審判期日	4
横浜市重症心身障害児者メディカルショートシステム実務者会議	3
西区担当ケアマネジャーとの交流会	1
横浜市中区生活支援センター運営委員会	1
医療連携に関する検討会	1
西区地域ケア懇談会	1
新山下地域ケアプラザ訪問(地域連携)	1
横浜市総合保健医療センター 見学実習	1
横浜市児童虐待防止医療ネットワーク	3
就労相談	1
中区要保護児童対策連絡会	3
平成26年度 横浜市精神医療審査会 全体会	1
地域包括ケアにおける中区介護と医療の連携検討会	1
第19回 4区医師会 みなと赤十字病院合同研究会	1
高齢者虐待防止事業 合同連絡会	1
地域ケアプラザ所長会議	1
介護と医療の検討会	1
医療との連携(戸塚区)	1
第45回 地域医療連携に携わる担当者交流会	1
中区自立支援協議会 第2回 合同担当者会議	1
中区精神保健業務連絡会	1
精神科法定書類提出	1
横浜脳卒中地域連携懇話会セミナー	1
金沢区地域医療・在宅支援連絡会	1
平成26年度 神奈川県精神科病院事務長・医事担当者会議	1
精神科救急身体合併症転院事業受入病院連絡会	1
横浜脳卒中・リハ連携研究会(Y-CIRCLE)	2
平成26年度 第1回 学術委員会	1
神奈川脳卒中広域シームレス医療研究会セミナー	2
中区自立支援協議会 高齢化プロジェクト	2
平成26年度心身喪失者等医療観察法関係研究協議会	1
横浜退院支援ナースの会	4
神奈川県がん診療連携協議会 相談支援部会 がん相談員研修会	1
かいこのWa! なか	6
見える事例検討会(地域との多職種事例検討会)	4

### ②研修・勉強会

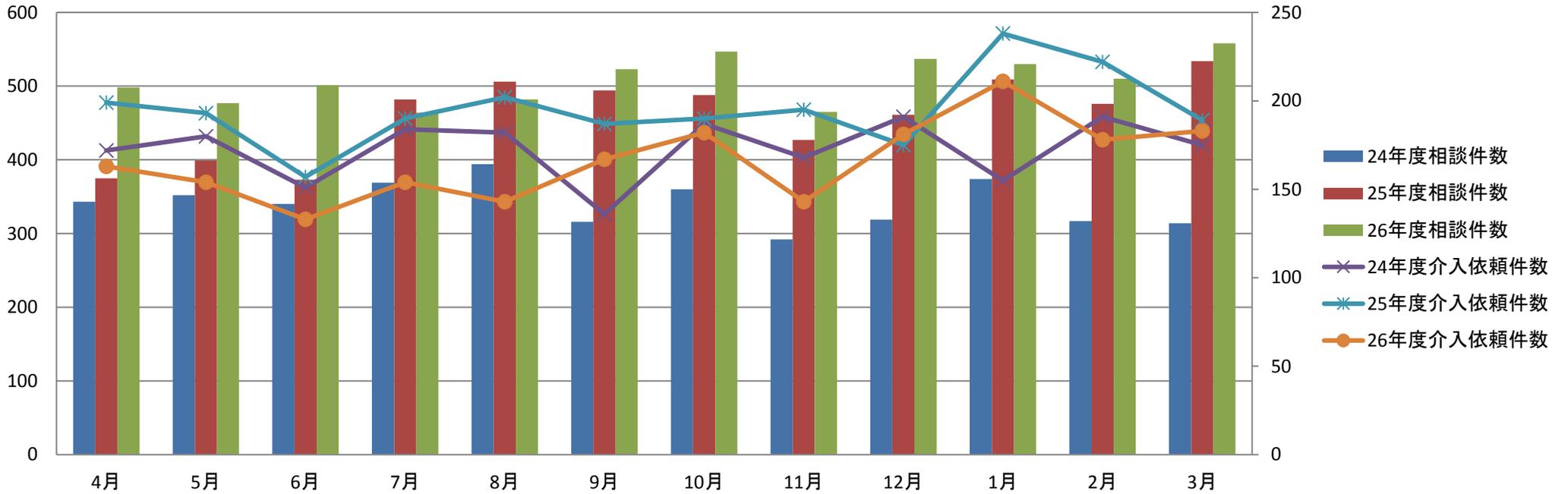
内容	回数
平成26年度 病院と在宅をつなぐ研修会	4
医療協ソーシャルワーカー会	3
神奈川県がん診療連携協議会 相談支援部会	3
平成26年度 エイズカウンセリング研修	2
神奈川県がん診療連携協議会 相談支援部会 統計検討ワーキング	2
医療協ソーシャルワーカー会 業務検討委員会	2
医療協ソーシャルワーカー会 世話人会	2
医療協ソーシャルワーカー会 事例検討委員会	1
がん相談員基礎研修(1)(2)	1
「がんになっても働けるということ」講演会	1
新人研修 2014年度神奈川県医療社会事業協会	4
就労支援に関する研修会	1
第8回 日本緩和医療薬学会年会	1
第10回 日赤東部ブロック 医療連携実務研究会	1
平成26年度 テーマ別研修 タイムマネジメント研修	1
管理者育成研修	1
平成26年度 医療ソーシャルワーカーリーダーシップ研修	1
障害児者医療検討委員会 院外研修	1
神奈川県医療社会事業協会 座談会	1
在宅療養を支える看護～それぞれの立場から～	1
第2回 みなと赤十字管理者育成研修	1
中堅職員研修	1
全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会 関東ブロック研修会	1
平成26年度 こころのケア 指導スタッフとして	1
平成26年度 救護員対象こころのケア研修	1
精神保健福祉の連携研修	1
医療協 施設部拡大幹事会	1
平成26年度 第2回 全国赤十字救護班研修会	1
がん相談支援センター 相談員基礎研修(3)	1
全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会	1
第50回 日本赤十字社医学会総会	1
第50回(公)日本精神保健福祉協会全国大会	1
がん看護専門分野 退院支援・在宅療養支援コース	1
平成26年度 こころのケア 指導者会議	1
第18回 DMORT陽性研修会	1

### ③その他

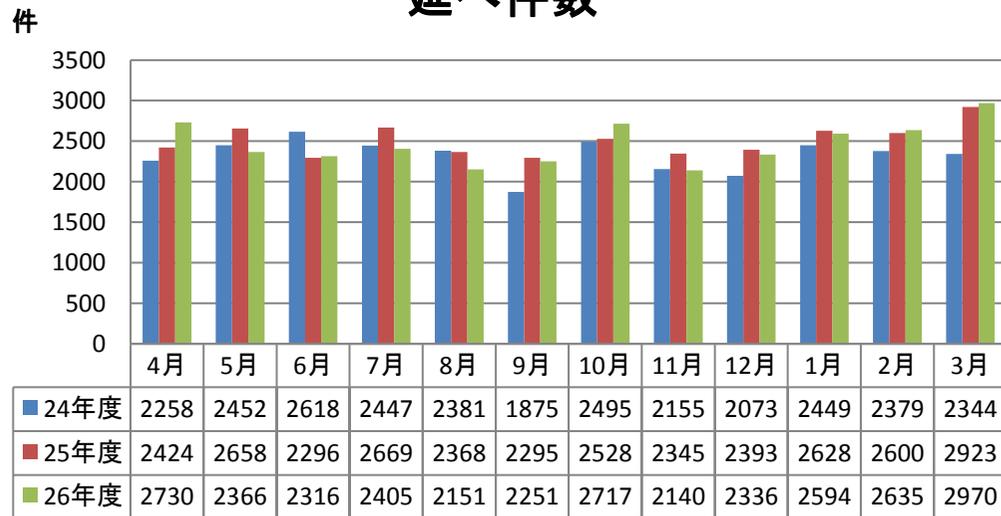
内容	回数
患者付き添い外出	16
病院訪問	2
西区役所訪問(未収金WG)	1
中区役所訪問(未収金WG)	1
未収金WG 勉強会(中区役所)	1
MSW面接	1
神奈川県リハビリテーション病院・七沢更生ライトホーム見学説明会	1
ソーシャルワーク実習 実習指導者懇談会	1

資料③

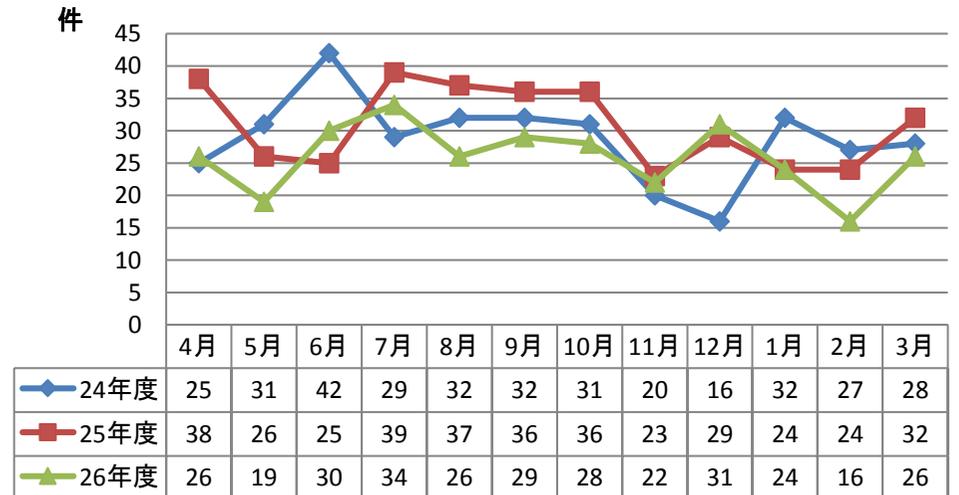
# 相談件数



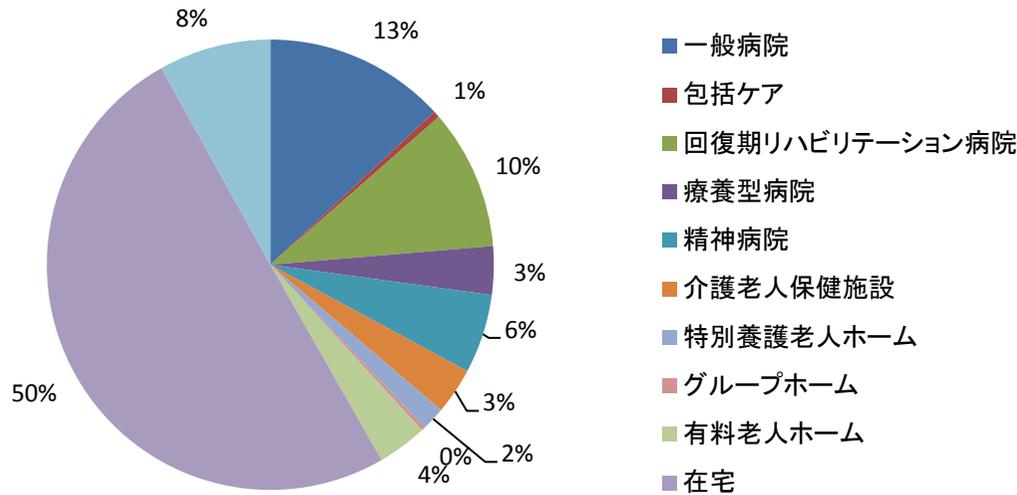
## 延べ件数



## 精神科入院相談



## 転帰先



## 病院トップ5

### 【一般】

①野村病院	62
②ふれあい横浜ホスピタル	31
③港南台病院	20
④横浜悠愛クリニック	16
⑤生麦病院	13

### 【回復期】

①横浜市立脳卒中・神経脊椎センター	53
②佐藤病院	18
③横浜なみきりリハビリテーション病院	15
④新横浜リハビリテーション病院	11
④ふれあい東戸塚ホスピタル	11

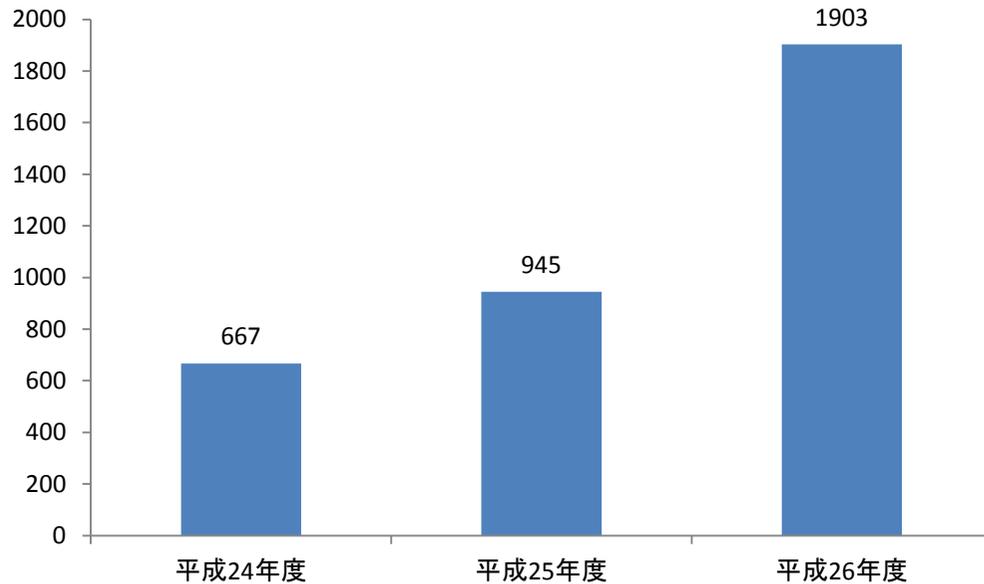
### 【療養型】

①関東病院	9
②横浜いずみ台病院	5
③本牧病院	3
④横浜悠愛クリニック	2
④元気会横浜病院	2
④佐藤病院	2
④育生会横浜病院	2

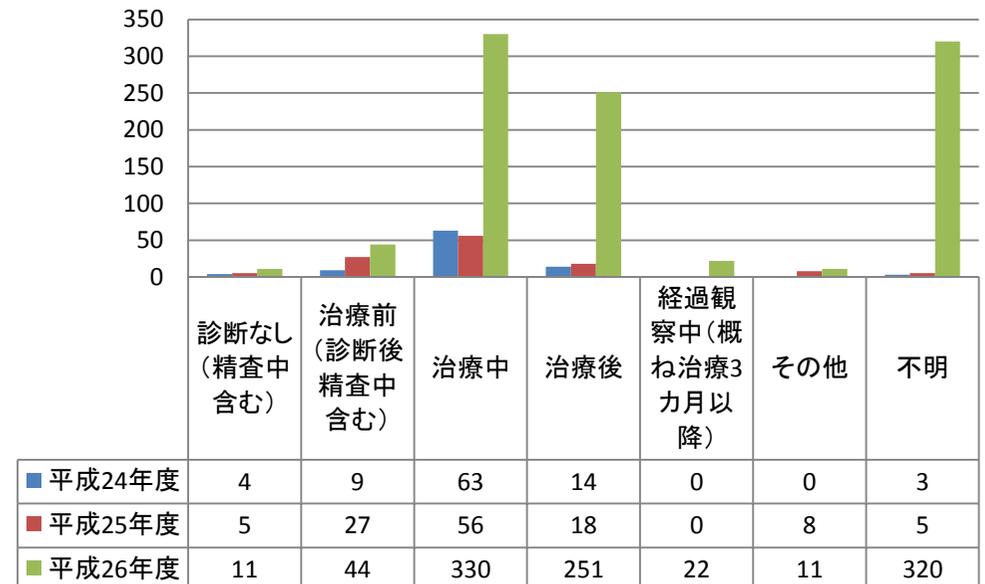
### 【精神】

①横浜舞岡病院	10
②あさひの丘病院	8
③ワシン坂病院	7
③東横恵愛病院	7
④神奈川県立精神医療センター	6
④日向台病院	6

## がん相談件数



## 患者本人の受診状況



## 2-5 市民参加の推進

### 1 事業概要

市民の意見を反映させることによって、適切な役割・機能の確保と、提供する医療・サービスの質の向上を図ることを目的とする。

### 2 現状と課題

(1) 開催状況 年1回開催

【平成26年度】

平成27年3月6日(金)

【平成27年度】

平成28年2月(予定)

(2) 委員構成

	委員名	役職
1	行天 良雄	医事評論家
2	荻野 アンナ	作家 慶應義塾大学教授
3	西川 哲男	独立行政法人労働者健康福祉機構 横浜労災病院 院長
4	向山 秀樹	横浜市中区医師会 会長
5	玉村 和巳	日本発条株式会社 代表取締役社長
6	川本 守彦	川本工業株式会社 代表取締役社長
7	河村 朋子	横浜市磯子区医療センター 訪問看護ステーション 管理者
8	平山 正晴	横浜市中区連合町会連絡協議会 会長
9	国広 尚武	横浜市立みなと赤十字病院奉仕団 団員

### 3 28年度事業計画

平成29年3月開催予定

(主な議題)

経営状況ほか

## 2-6 患者サービス

### 1 事業概要

サービス向上委員会および、今年度新設のカスタマーリレーションセンター、昨年度から活動の入院支援センターで患者サービスの向上を図っている。また、病院ボランティアの幅広い活動も患者サービスに寄与している。

サービス向上委員会においては、外来・入院の患者さんやご家族に病院を快適に利用していただくために、患者さんの声を伺い、課題を明らかにして組織的な改善に取り組んでいる。また、病院ボランティアの方々に患者サービスの支援をいただいている。

カスタマーリレーションセンターでは、快適な入院生活並びに満足度の向上を目的に、患者の立場に立って施設やサービスを立案・行動することをめざす。

入院支援センターは入院治療を受ける患者さんが安心して治療を受けることができるように、外来で多職種連携して患者を支援する体制を整備した。

### 2 現状と課題

サービス向上委員会については、毎年「患者満足度調査」「みなさまの声・ご提案」によって集積される患者さんのご意見を分析し、患者サービス向上への取り組みを行っている。課題の案内表示は、今年度トイレの表示を大きく色分けをしてわかりやすいものへ変更した。売店等の改善についても、コンビニエンスストアやカフェが入ったことにより少しずつ快適な環境づくりが整備されてきている。

カスタマーリレーションセンターでは、8階特別室の改善に取り組んでいる。また、コンシェルジュがサービスの拡充を進めている。

入院支援センターでは手術や化学療法を受ける予定入院の患者の支援の質を検討し、サービスを開始した。

ボランティア活動は、みなと赤十字病院奉仕団の病院ボランティアの方々にも協力いただき、イベント支援や車いす清掃、敷地内のガーデニング、外来患者さんの案内を実施している。

### 3 28年度事業計画

- ・ 接遇向上のための研修企画
- ・ わかりやすい院内表示の作成
- ・ サービス向上委員会での患者サービスに関する評価と、関連各部署の改善

課題の明確化

- ・カスタマーリレーションセンターによる患者サービスの再構築
- ・コンシェルジュによる8階特別室のサービス向上
- ・入院支援センターの活動範囲拡大と施設整備
- ・病院ボランティア活動をしやすい環境づくり
- ・病院ボランティア養成講座の充実

#### 4 データ

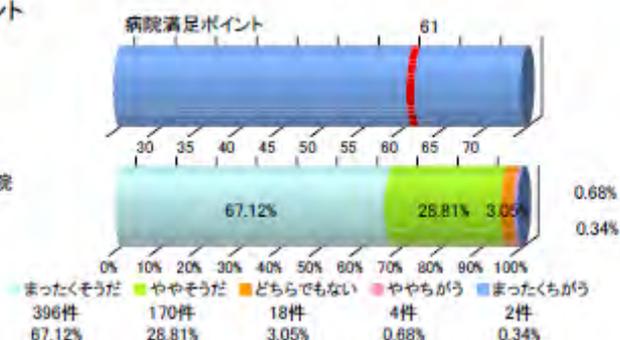
<患者満足度調査結果>

- ・平成25年度

【図1】入院 病院満足ポイント

評価 8  
(最高10)

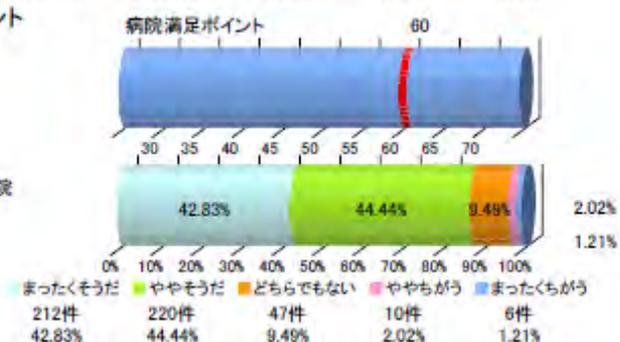
貴施設の「全体としてこの病院  
に満足している」への回答  
有効数 590件



【図2】外来 病院満足ポイント

評価 8  
(最高10)

貴施設の「全体としてこの病院  
に満足している」への回答  
有効数 495件



- ・平成26年度

【この病院に対する全体的な評価】

入院 (有効回答数 504件)



外来（有効回答数 614件）

満 足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不 満	無回答 わからない
33.2	32.9	8.6	1.1	0.5	23.6

<病院ボランティア活動>

・平成26年度 病院奉仕団実施行事

- 5月2日（金） こどもの日の会
- 6月11日（水） ANAすずらんイベント
- 6月21日（土） 緩和ケア病棟「紫陽花の会」
- 7月20日（日） サマーコンサート
- 8月28日（木） 小児病棟「夏祭り会」
- 9月13日（土） 緩和ケア病棟「秋の音楽会」
- 10月18日（土） きらきらコンサート
- 12月13日（土） 緩和ケア病棟「クリスマス会」
- 12月21日（日） クリスマスコンサート
- 12月24日（水） 小児病棟「クリスマス会」
- 2月20日（金） 病院ボランティア養成講座
- 3月3日（木） 小児病棟「ひなまつり会」

・その他の活動

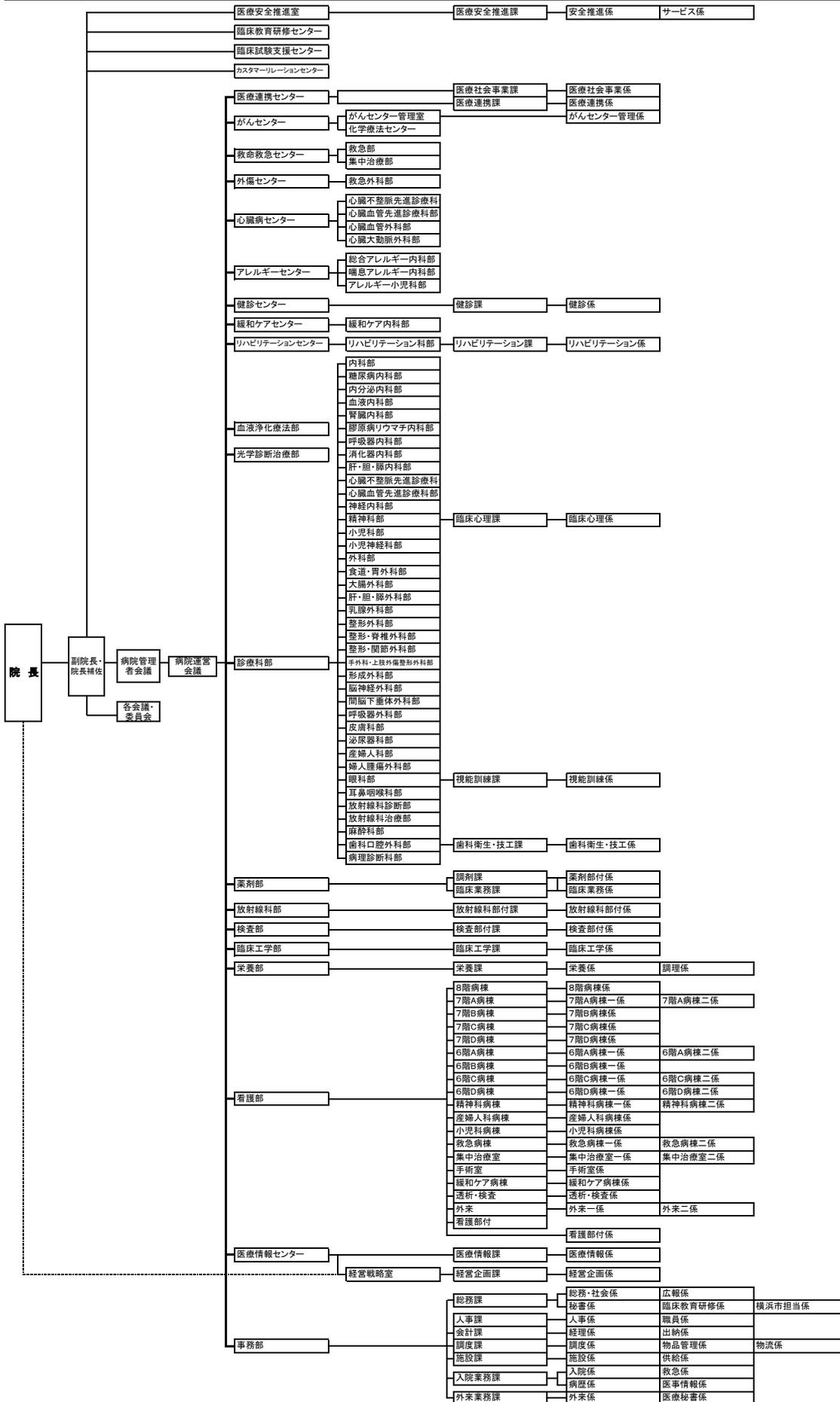
- ・ガーデニング：第2・4水曜日

<作業部会>

- ・パッチワーク：第1・3金曜日
- ・車いす清掃：第1・3金曜日
- ・緩和ケアセンター「がんサロン」のサポート
- ・病院が実施する災害訓練への協力
- ・アレルギーセンター主催「市民セミナー」への協力

# 3 職員体制

1 横浜市立みなと赤十字病院 組織図 平成28年4月1日(予定)



## 2 職員配置予定数

職 種	配置予定	内 訳			備 考	
		常勤	非常勤	派遣職員等		
管 理 部 門	事 務 職 員	191	67	17	107	
	技 術 職 員	3	3			
	運 転 手	0				
	ボ イ ラ ー 技 師	0				
	電 話 交 換 手	2	1		1	
診 療 部 門	医 師	259	193	66		
	歯 科 医 師	5	5			
看 護 部 門	看 護 師	678	660	18		
	准 看 護 師	2	2			
	看 護 助 手	64	22	28	14	
	事 務 職 員	19	2	1	16	保育1含む
健 診 部 門	看 護 師	4	4			
	事 務 職 員	10	2		8	
連 携 部 門	社 会 福 祉 士	5	5			
	精 神 保 健 福 祉 士	3	3			
	看 護 師	6	6			
	事 務 職 員	11	7	1	3	
検 査 ・ 医 療 技 術 部 門	薬 剤 師	42	42			
	診 療 放 射 線 技 師	33	33			
	臨 床 検 査 技 師	40	40			
	理 学 療 法 士	21	20	1		
	作 業 療 法 士	9	9			
	言 語 聴 覚 士	6	6			
	マ ッ サ ー ジ 師	0	0			
	臨 床 工 学 技 士	11	11			
	視 能 訓 練 士	2	2			
	歯 科 衛 生 士	4	3	1		
	臨 床 心 理 士	2	2			
	管 理 栄 養 士	9	9			
	栄 養 士	0				
	調 理 師	6	6			
事 務 職 員	3			3	薬剤部3	
その他	5	1	2	2	アレルギーセンター事務5	
合 計	1455	1166	135	154		

3 診療科部門責任体制

	部門名	配置 予定	職 名	氏 名
1	救命救急センター	1	センター長 副センター長	八木 啓一 欠
2	救急部	8	部長 副部長	伊藤 敏孝 中山 祐介
3	集中治療部	7	部長 副部長	武居 哲洋 欠
4	内科	1	部長 副部長	渡辺 孝之 欠
5	糖尿病内科	兼	部長 副部長	渡辺 孝之(兼) 欠
6	内分泌内科	5	部長 副部長	太田 一樹 欠
7	血液内科	3	部長 副部長	山本 晃 欠
8	腎臓内科	4	部長 副部長	欠 藤澤 一
9	膠原病リウマチ内科	3	部長 副部長	萩山 裕之 欠
10	緩和ケア内科	1	部長 副部長	小尾 芳郎 欠
11	呼吸器内科	7	部長 副部長	河崎 勉 鶴浦 康司
12	消化器内科	9	部長 副部長	有村 明彦 永山 和宜
13	肝・胆・膵内科	1	部長 副部長	先田 信哉 欠
14	心臓不整脈先進診療科	6	部長 副部長	沖重 薫 青柳 秀史
15	心臓血管先進診療科	6	部長 副部長	山内 康照 倉林 学
16	神経内科	6	部長 副部長	田中 宏明 欠
17	総合アレルギー内科	1	部長 副部長	中村 陽一 欠
18	喘息アレルギー内科	1	部長 副部長	遠藤 順治 欠
19	精神科	7	部長 副部長	嶋津 奈 京野 穂集
20	小児科	11	部長 副部長	菊池 信行 堀口 晴子、磯崎 淳
21	外科	6	部長 副部長	杉田 光隆 欠
22	食道・胃外科	2	部長 副部長	欠 小野 秀高
23	大腸外科	2	部長 副部長	欠 中寫 雅之
24	肝・胆・膵外科	兼	部長 副部長	杉田 光隆(兼) 欠
25	乳腺外科	3	部長 副部長	清水 大輔 欠
26	救急外科	1	部長 副部長	馬場 裕之 欠
27	臨床試験支援センター	1	センター長 副センター長	伊藤 理 欠

	部門名	配置 予定	職 名	氏 名
28	整形外科	5	部長 副部長	小森 博達 欠
29	整形・脊椎外科	2	部長 副部長	佐々木 真一 沼野 藤希
30	整形・関節外科	2	部長 副部長	浅野 浩司 欠
31	手外科・上肢外傷整形外科	3	部長 副部長	若林 良明 品田 春生
32	形成外科	3	部長 副部長	横山 明子 矢野 智明
33	脳神経外科	4	部長 副部長	竹本 安範 沼上 佳寛
34	間脳下垂体外科	1	部長 副部長	持松 泰彦(兼) 欠
35	呼吸器外科	1	部長 副部長	下山 武彦 欠
36	心臓血管外科	3	部長 副部長	田淵 典之 欠
37	心臓大動脈外科	1	部長 副部長	伊藤 智 欠
38	皮膚科	3	部長 副部長	渡辺 憲 欠
39	泌尿器科	5	部長 副部長	土屋 ふとし 村上 貴之
40	産婦人科	6	部長 副部長	多田 聖郎 和知 敏樹
41	婦人腫瘍外科	1	部長 副部長	多田 聖郎(兼) 高橋 慎治
42	眼科	3	部長 副部長	椎野 めぐみ 永野 葵
43	耳鼻咽喉科	2	部長 副部長	新井 基洋 牧山 祐希
44	リハビリテーション科	2	部長 副部長	新井 雅信 松本 卓
45	光学診断治療部	兼	部長 副部長	先田 信哉 欠
46	放射線診断科	2	部長 副部長	荻 成行 欠
47	放射線治療科	1	部長 副部長	大谷 洋一 欠
48	麻酔科	5	部長 副部長	西村 一彦 欠
49	歯科口腔外科	4	部長 副部長	向山 仁 中島 雄介
50	病理診断科	1	部長 副部長	熊谷 二郎 欠
51	健診部	2	部長 副部長	伊藤 美奈子 欠
52	がんセンター	兼	センター長 副部長	阿部 哲夫 欠
53	臨床研修医	34	初期研修 後期研修	34 10(再掲)
	診療科計	198		

※非常勤医師を含めない(非常勤医師数は66名)

#### 4 看護部門責任体制

	部門名	配置予定	職 名	氏 名	助手	クラーク
1	看 護 部	10	看護部長	鈴木 恵子		
			副部長	3		
			師長	1		
			係長	1	1	2
2	外 来	33	師長	1		
			係長	2	5	0
3	手 術 室	34	師長	1		
			係長	1	1	1
4	8 階 病 棟	26	師長	1		
			係長	1	3	1
5	7 階 A 病 棟	32	師長	1		
			係長	2	4	1
6	7 階 B 病 棟	28	師長	1		
			係長	2	3	1
7	7 階 C 病 棟	30	師長	1		
			係長	1	3	1
8	7 階 D 病 棟	32	師長	1		
			係長	1	4	1
9	6 階 A 病 棟	31	師長	1		
			係長	2	7	1
10	6 階 B 病 棟	33	師長	1		
			係長	1	4	1
11	6 階 C 病 棟	29	師長	1		
			係長	2	5	1
12	6 階 D 病 棟	29	師長	1		
			係長	1	6	1
13	精 神 科 病 棟	27	師長	1		
			係長	2	1	1
14	産 婦 人 科 病 棟	34	師長	1		
			係長	1	3	1
15	小 児 科 病 棟	32	師長	1		
			係長	1	2	2
16	救 急 病 棟	41	師長	1		
			係長	2	4	1
17	集 中 治 療 室	50	師長	1		
			係長	3	2	1
18	緩 和 ケ ア 病 棟	25	師長	1		
			係長	1	2	1
19	透 析 ・ 検 査	23	師長	1		
			係長	1	3	
20	夜 勤 専 従		師長			
			係長			
20	看 護 教 育		師長			
			係長			
21	看 護 部 付	101	師長			
			係長		1	
	看 護 師 計	680				
	助 手 ・ ク ラ ー ク 計	83			64	19
	看 護 部 計	763				

\*非常勤の看護師、助手、クラーク、および派遣の助手、クラークも含める

## 5 健診部門責任体制

1	健診センター	14	センター長	伊藤 美奈子	医師の兼務
			課長	1	健診課
			係長	欠	健診係

\* 非常勤も含める。派遣のクラークも含める。

## 6 連携部門責任体制

1	医療連携センター	23	センター長	持松 泰彦	医師の兼務
			副センター長	1	看護師の兼務
			課長	1	医療連携課
			課長	1	医療社会事業課
			係長	1	医療連携係
			係長	1	がんセンター管理係
			係長	欠	医療社会事業係

\* 非常勤も含める。派遣のクレークも含める。

7 検査・医療技術部門責任体制

	部 門 名	配置予定	職 名	氏 名	備考
1	薬 剤 部	45	部長	猪股 克彦	
			副部長	1	
			課長	1	調剤課
			課長	1	臨床業務課
			係長	2	薬剤部付
			係長	1	臨床業務係
2	放 射 線 科 部	33	部長	荻 成行	医師の兼務
			副部長	欠	
			技師長	欠	
			課長	2	放射線科部付
			係長	2	放射線科部付
4	病 理 部	40	部長	熊谷 二朗	医師の兼務
			課長	欠	病理検査課
			係長	1	病理検査係
5	検 査 部	40	部長	熊谷 二朗	医師の兼務
			技師長	1	
			課長	2	検査部付
			係長	2	検査部付
6	精 神 科 部	2	部長	嶋津 奈	医師の兼務
			課長	欠	臨床心理課
			係長	欠	臨床心理係
7	眼 科 部	2	部長	椎野 めぐみ	医師の兼務
			課長	欠	視能訓練課
			係長	欠	視能訓練係
8	歯 科 口 腔 外 科 部	4	部長	向山 仁	医師の兼務
			課長	欠	歯科衛生・技工課
			係長	欠	歯科衛生・技工係
9	リハビリテーション科部	36	担当部長	新井 雅信	医師の兼務
			副部長	1	医師の兼務
			課長	1	リハビリテーション課長
			係長	1	リハビリテーション係
10	臨 床 工 学 部	11	部長	田渕 典之	医師の兼務
			課長	1	臨床工学課長
			係長	1	臨床工学係
11	栄 養 部	15	部長	太田 一樹	医師の兼務
			副部長	1	医師の兼務
			課長	1	栄養課長
			係長	1	栄養係
			係長	1	調理係
	検査・医療技術部門計	188			

8 管理部門責任体制

	部門名	配置予定	職名	氏名	備考
1	医療情報センター	19	センター長	山本 晃	医師の兼務
			課長	1	医療情報課
			係長	1	医療情報係
			課長	兼	経営企画課
			係長	兼	経営企画係
2	医療安全推進室	3	室長	小森 博達	医師の兼務
			課長	1	医療安全推進課
			係長	欠	安全推進係
			係長	欠	サービス係
3	事務部	181	部長	小山田 茂夫	
			副部長	1	
			課長	1	総務課
			係長	1	総務・社会係
			係長	1	広報係
			係長	1	臨床教育研修係
			課長	兼	人事課
			係長	1	人事係
			係長	1	職員係
			課長	1	会計課
			係長	1	経理係
			係長	欠	出納係
			課長	1	調度課
			係長	1	調度係
			係長	欠	物品管理係
			係長	欠	物流係
			課長	1	施設課
			係長	兼	施設係
			係長	欠	供給係
			課長	1	入院業務課
			係長	1	入院係
			係長	欠	救急係
			係長	1	病歴係
課長	1	外来業務課			
係長	1	外来係			
係長	欠	医療秘書係			
管 理 部 計		203			

\*アレルギーセンターはカウントしない 総括表のその他へ

\*兼務の人はカウントしない。例) 持松センター長は脳外科でカウントし、医療連携センター長としてはカウントしない

\*健診センターや医療社会事業課の看護師もカウントする。(看護部8(3)の看護部門責任体制に含まないため。)

\*非常勤も含める。派遣のクラークも含める。

\*本来なら、調度課関係の委託職員も含める必要があるが含めていない。

## 4 職員研修

## 4-1 職員研修（医師）

### 1 事業概要

平成16年度に新医師臨床研修制度が開始され、当院も平成17年4月に開院して以来、医師臨床研修事業に取り組んできた。将来希望する診療科に関する専門知識に留まらず、すべての患者の初期診療が適切に行える医師の育成を目指し、コアカリキュラムの充実を図っている。また平成24年度から歯科臨床研修も開始し、医科とともに優れた医療人輩出を目指して研修を行っている。

### 2 現状と課題

研修医の臨床能力向上のため、25年度以降入職後速やかに外傷セミナーと救急講習会、ICLS コースを実施している。また25年度に始めた全職種新卒入職者向けの「チーム医療研修」を26年度より一泊二日の宿泊研修で行い、チーム医療のみならず医療安全やメンタルヘルスへの認識を深めることができた。

より安全な医療を提供するための院内技術試験には、シミュレーターを使った腹腔鏡外科手術に加え、中心静脈穿刺法の技術認定制度（平成27年度より指導者認定試験を実施）も開始した。これらを受講合格することにより研修医のみならず全ての医師の知識や技術の向上に貢献していると考えられる。

平成27年度より、研修医の定数がこれまでの7名から13名への増加が認められたため、研修診療科の調整や環境整備などを実施した。具体的には、初期研修2年目の地域医療研修先の開拓や、選択可能な診療科増加、研修医室やロッカー室、当直室の増築などを行った。

歯科研修も2年目を迎えた25年度より大学病院からの研修歯科医の受け入れを開始し、当院採用の研修歯科医と共に少人数の良さを生かした指導医からの細かな指導を受け、日々研修に打ち込んでいる。

### 3 28年度事業計画

27年度からは研修医の定数がこれまでの7名から13名への増加が認められた。平成28年度も13名のため、これまで以上に研修診療科の調整や体調管理、環境整備などへの配慮が必要とされる。そのため、平成28年度も仕事量の増加が予想されるが引き続き、センター長1名、副センター長2名体制で個別面談やヒアリングを定期的に行い、研修医のメンタルヘルスや研修の修了状況を適宜チェックしていく予定である。

平成23年度から行っている医学講義「モーニングセミナー」は毎年その内容を研修医と協議し引き続いて実施している。講義自体の質の向上を図る目的

で講師である指導医向けのFDセミナーも年1～2回を目標に行う予定である。

それに加え、平成28年度は、平成29年度開始予定の新専門医制度に伴うプログラム作成や当院の体制整備等が大きな課題として挙げられる。

#### 4 データ

(研修医) 定員数 (採用数)

平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
6 (6)	7 (6)	13 (13)	13

(研修歯科医) 定員数 (採用数)

平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
1 (1)	1 (1)	1 (1)	1

## 4-2 職員研修(看護部)

### 1 事業概要

- 1) 現任教育を行い、看護職員のキャリア開発を図る
- 2) 新人看護師臨床研修体制の確立と推進
- 3) 管理者のキャリア開発を図る

### 2 27年度の事業計画の現状と課題

#### 1) 自律した看護職員の育成

昨年度、開院10年目となり当院が求める看護師像を改めて具現化し、管理者全員で共有した。今年度は看護職員が新たな「求める看護師像」に向け、主体的に院内・外の研修を自ら選択し、キャリア開発に取り組んでいる。

現在、実践者ラダー研修は18コースあり、年63回（新人の技術研修は除く）の研修を実施し、研修生はのべ628名となりキャリア開発に貢献している。特にラダーレベルⅢでは、研修での学びを看護実践に活かし部署の看護の質貢献につながられている。

部内の教育目的は「一人ひとりが役割を果たす中で自己成長すること」である。管理者は部署の目標と一人ひとりの目標に合わせた役割をマッチングし、自己成長を支援している。課題は、一人ひとりが役割に取り組んだ成果と自身の成長を実感できる支援である。

#### 2) 看護職員の離職防止

新人看護職員の離職は現在1名である。新人看護職員臨床研修体制を構築し、4年が経過した。部内の集合教育と部署の教育体制の充実及び全職種参加によるワークショップの成果であり、このまま継続していきたい。一方、卒後3年目から5年目の看護師は役割の増大に負担を感じている。今年度の看護部目標である「専門職としてワクワクする職場で活力をもって働く」ことができるよう支援が必要である。そのためには、管理者は一人ひとりが、看護師としてのやりがいにつながるような仕事ができるよう、個人の耐性を理解し支援することが課題である。今後は、目標管理面接に着目していきたい。

#### 3) 看護管理者の管理実践能力向上のためのキャリア開発

主体的な研修受講を推進するため、管理者ラダーのレベルに合わせた研修と実践内容について一覧に示した。また、院外研修については各自の課題に即して積極的に受けられるようにした。

管理者ラダーⅠの院内研修については、2コース、年12回の研修を実施し、研修生はのべ19名育成している。26年度に研修を構築し、育成を開始した「新任係長研修」については学会で実践報告できた。課題は、管理者ラ

ダーⅡの院内研修構築と実施である。

ラダーの取得については11月に初めてのレベルⅠ申請があり、今後、運用を確立していきたい。課題は、ラダーレベル取得の推進と適正な評価が行えるための評価者トレーニングである。

4) 一人ひとりがキャリア開発の電子カルテシステムを活用した主体的なキャリア管理

昨年度より医療情報課と連携しシステムの構築を行い、今年度よりそのシステムを導入し、院内外の研修管理を開始した。段階的に導入し、稼働と運用の検証を行いながら進め、次年度までに全ての導入を実施する。

今後は、一人ひとりの看護師がシステムを積極的に活用して自身のキャリアファイルを作成し、組織としては職員の研修データの蓄積と管理をしていきたい。

### 3 28年度事業計画

- 1) 一人ひとりが役割を果たす中で自己成長できる看護師の育成
  - ・ ラダー研修での学びを看護実践に活用し、成果を実感できる研修運営
  - ・ 成長を実感できる目標管理の推進
- 2) 看護職員の定着促進
  - ・ ラダーの指標に合わせた研修と部署教育の検討
  - ・ 職員が自身の目標を明らかにし、取り組んだ結果を成果をとって実感できるよう支援する目標管理面接の推進
- 3) 看護管理者の管理実践能力向上のためのキャリア開発
  - ・ 管理者ラダーⅡの研修構築
  - ・ 主体的なラダー取得の推進
  - ・ 適正な評価ができるための評価者トレーニング
- 4) キャリア開発のための電子カルテシステムの活用
  - ・ 全システムの導入と運用の確立
  - ・ システムを活用した自身のキャリアファイルの作成
  - ・ 運用の効率化
  - ・ 研修データの蓄積と管理

#### 4 データ

項目	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度 (見込)
実践者ラダーレベルⅠ認定	55 人	44 人	44 人
レベルⅡ認定	45 人	38 人	50 人
レベルⅢ認定	10 人	4 人	20 人
管理者ラダーレベルⅠ認定		0 人	5 人
ラダー研修	80 回	72 回	75 回
新人技術研修	8.5 日	8.5 日	8.5 日
院外研修(看護協会)	112 人	114 人	120 人
看護管理者ファースト研修	6 人	6 人	2 人
看護管理者セカンド研修	1 人	1 人	1 人
看護管理者サード研修	1 人	0 人	1 人
臨床指導者研修	2 人	2 人	2 人
認定看護師研修	2 人	0 人	1 人
学会発表・参加	50 人	60 人	71 人

## 4-3 職員研修（薬剤部）

### 1 事業概要

- ・ 認定薬剤師取得を見据えたプログラムの作成・研修の管理
- ・ 薬剤部部員会における研修の企画運営

### 2 現状と課題

#### ●現状

（プログラム作成実績）

- ・ 薬剤部部員会でのプログラムの作成および薬剤師研修委員による精査・評価
- ・ 認定薬剤師取得を見据えた教育ラダーの作成

（研修会実績）

- ・ バランストスコアカード（BSC）に関する説明会（個人目標へのつなげ方）1回
- ・ 新薬にこだわらない薬剤に関する説明会 15回
- ・ がんに関する勉強会  
（平成25年度7回実施、平成26年度9回実施、今年度は4回終了しており予定10回に向かい順調に進んでいる）
- ・ 昨年度から開始している感染症勉強会は現在のところすでに3回実施している
- ・ 学会報告会については26年度12回実施、今年度は現在のところ7回実施している
- ・ 病棟関連業務に関するオーディット及び勉強会（26年度は9回実施、今年度はすでに4病棟の担当者が実施している）
- ・ 各種抄読会（26年度8回実施、今年度はすでに6回実施）

●課題としては毎週火曜日の部員会のボリューム改善のため、学会報告については文書報告と代表者の発表で情報共有する形に変え、オーディットは内容充実のため必ず指定コメントーターを立てる形とした。今後評価をし、調整する。

### 3 平成28年度事業計画

- ・ 認定だけでなく専門薬剤師取得を見据えたプログラムの作成・研修の管理
- ・ 薬剤部部員会における研修の企画運営

上記2項目を中心にさらに進めていく

質を上げるための回数の確保という観点で行ってきたが、更なる質の精査を行いながら継続していく。

#### 4 データ

平成 26 年度

- ・ バランストスコアカード (BSC) に関する説明会 (個人目標へのつなげ方) 1 回
- ・ 薬剤に関する説明会 4 回
- ・ 治験薬に関する説明会 8 回
- ・ がんに関する勉強会 9 回
- ・ 学会報告会 12 回
- ・ 病棟関連業務に関するオーディット及び勉強会 9 回
- ・ 各種抄読会 8 回

平成 27 年度 (予定)

- ・ バランストスコアカード (BSC) に関する説明会 (個人目標へのつなげ方) 1 回
- ・ 薬剤に関する説明会 30 回
- ・ 治験薬に関する説明会 8 回
- ・ がんに関する勉強会 10 回
- ・ 学会報告会 12 回
- ・ 病棟関連業務に関するオーディット及び勉強会 9 回
- ・ 各種抄読会 12 回

#### 5 その他

- ・ 薬剤部研修事業については評価精査を的確に行うことにより、プログラムのさらなる充実に努めたい

#### 4-4 職員研修（医療技術部門）

##### 1 事業概要

当研修部門は、放射線科部、検査部、栄養部、臨床工学部、リハビリテーション科部より構成される。医療の高度化・複雑化に伴う業務の増大により多種多様な医療スタッフがそれぞれの高い専門性を前提として、お互いに連携し患者の状況に的確に対応したチーム医療スタッフの育成支援を目指す。

##### 2 現状と課題

平成 27 年度は、多職種連携型教育ラダープログラムに準じた研修プログラムをいくつか実践した。また、臨床研修センター主導で年 2 回の全職種新入職員を対象とした「チーム医療」のワークショップを実施した。後述のワークショップへの参加率は 100%であるが、前述の部門内研修への参加率はそれには遠く及ばないのが実情である。部門内研修への参加率を上げることと、プログラムを立案、実践していく上でのリーダーの育成が課題である。

##### 3 平成 28 年度事業計画

引き続き、多職種連携型教育ラダープログラムに沿ったレベル別研修を遂行する。同時にラダープログラムの検討・改良を行う。医療技術部門は、多職種の研修組織であるため、全職種共通の研修、少数職種間の研修内容をより充実させ、参加しやすい研修制度を構築・実践する。

##### 4 データ

医療技術部門レベル別技師数（平成 27 年度）

部署	レベル I	レベル II	レベル III	レベル IV	レベル V	レベル VI
放射線科部	2	7	7	7	6	4
検査部	0	8	5	6	16	6
栄養部	1	1	2	2	1	2
臨床工学部	2	2	2	3	0	2
リハ科部	3	1	7	9	7	2

（レベル I ; 卒後 1 年目、II ; 2 ~ 3 年目、III ; 4 ~ 5 年目、IV ; 6 ~ 10 年目 ;  
V ; 11 年目 ~、VI; 役職）

## 4-5 職員研修（事務職）

### 1 事業概要

平成 24 年 5 月に事務研修プロジェクトとして企画立案が開始され、同年 11 月～試行的に開始した。平成 25 年度、同プロジェクトは委員会に昇格し、事務研修委員会として研修立案や実施に取り組んできた。

階層をレベルⅠ（新入職員）、同Ⅱ（入職 2 年目）、同Ⅲ（中堅職員）、同Ⅳ（係長）、同Ⅴ（課長）に区分し、看護職の研修ラダー制度を参考にしたプログラムを構築した。

レベルⅠとⅡは基本的に毎月開催し、現任の課長や係長が講師となって指導している。レベルⅢでは外部主催研修についての参加報告を中心に行い、レベルⅣとⅤについては宿泊での研修もあり、主にグループワークを行っている。

### 2 現状と課題

24～27 年度は、社会経験を有する者のほか、一般大卒、医療事務専門学校卒の新入職員を合わせて毎年 5～10 名程度入職しており、入職時点での「医療全般」に対する知識に格差が生じている。

そこで直近 2 年間はともに入職後早期に、所属部署以外の職場体験や看護体験などを行い、「病院」という組織の理解度を深めたことで、対象者の成長と定着の傾向は認められたものの、判断力や主体的行動力等についてはまだ伸びしろを残している状況である。

レベルⅢについては、経験年数や年齢層が幅広く、テーマや内容の選定が難しいが、発表の機会を持つことを主眼とし、さらなる参画意識を高めていくことが重要と考えている。

### 3 28 年度事業計画

いずれの階層においても、2 年間で構築してきたプログラムをベースに、取り組む予定である。

レベルⅠ及びⅡについては、従前から行っているコミュニケーション研修を継続し、広い視野とジェネラルな能力を持った職員を育成することに努めたいと考えている。

また、レベルⅢ研修対象者の参画機会を増やし、レベルⅣ・Ⅴについては、臨床教育研修センター主体の研修と並行し、系統だったマネジメント研修を取り入れたいと考えている。

その他、全レベル対象に災害救護研修・事務系ラダー赤十字災害救護関連に関してプログラムの構築を行うこととしている。

#### 4 データ（平成 27 年度開催：当院主催以外の研修を除く）

レベルⅠ：年間 16 回 <全体及び事務職員向けオリエンテーション、チーム医療ワークショップ（春・秋）、他部署体験研修、総合案内 業務研修、当直業務研修、一日看護体験、病院の仕組み、コミュニケーションスキル研修、当直業務振り返り研修、新入職員 フォロー研修、文書作成の基本など>

レベルⅡ：年間 7 回 <物流管理、業務改善オリエンテーション、医療保険制度、診療報酬及びD P C、会計の基礎、業務改善成果発表会等>

レベルⅢ：年間 4 回 <出張発表研修 3 回、ハイパフォーマー観察研修 1 回>

レベルⅣ・Ⅴ：年間 5 回 <危機管理研修（スタッフコール対応研修、火災警報に関する研修）、業務スキルアップ研修（プレゼン能力向上研修、診療報酬改定のための情報収集）、管理者育成研修（秋）など>

## 5 院外からの研修受入れ

## 5-1 院外学生研修計画（看護部）

### 1 事業概要

平成17年4月1日病院開業から横浜市立病院、赤十字病院として、看護基礎教育実習や卒後教育の研修を受け入れている。

### 2 現状と課題

- (1) 現在、看護基礎教育は2大学・4専門学校を受け入れている。今年度は、388名（昨年度326名）と受け入れ学生数を増やした。

卒後教育として認定看護師養成課程、認定看護管理者養成課程、専門看護師教育機関である大学院修士課程を受け入れている。今年度は初めて看護管理学修士課程の実習を受け入れた。

- (2) 臨床指導者委員会で「実習指導の手引き」、「各部署オリエンテーションマニュアル」を作成するなど2年かけ実習環境を整えた。これにより、実習受け入れ体制の標準化ができた。委員会では効果的な指導者の関わりや問題解決等の事例を通して共有をしている。学びが指導に活かされてきている。学生からは「大変実習指導が細やかでよい」という反応も聞かれている。
- (3) 実習指導者研修課程の修了者の増員を目指している。しかし、課程が少なく希望しても落ちる場合も多く、毎年2名程度の養成となっている。平成25年度から日本赤十字看護大学主催の実習指導者研修を活用し、現在まで29名が受講した。正規の課程修了ではないが指導力向上に取り組んでいる。平成26年度からは日本赤十字社幹部看護師研修センターでのファーストレベル研修に実習指導者講習会が追加され4名受講した。

### 3 平成28年度事業計画

#### (1) 看護基礎教育

来年度は2大学、3看護専門学校の看護基礎教育の受け入れを計画した。学生数は431名（今年度388名）を受け入れる。神奈川県内の看護専門学校の学生数の受け入れを次年度は244名（今年度229名）と今年度より多く受け入れる予定である。今後も受け入れ学生数を増やし看護基礎教育に貢献したい。

卒後教育においては、認定看護師養成課程、認定看護管理者養成課程、大学院修士課程等の研修計画は依頼を受け、年度明けに決定する。次年度も人材活用して卒後教育に貢献できるよう推進したい。

(2) 実習指導者の成長を支援

実習指導者研修や日本赤十字看護大学実習指導者研修を活用し実習指導者の育に努めている。実習指導者は、受け入れる実習校の実習の到達目標や学生のレディネスを理解し、学生個々に対して目標設定を行い細やかな的確な指導を行っている。実習指導者が実習を通してさらに成長していけるように教員との連携や部署の管理者の支援を進めていく。

(3) 実習指導者の育成

現在は、実習指導者研修の受講が難しい状況であるが、今後も受講者を増やせるように推薦していく。また、日本赤十字看護大学の実習指導者研修の活用を継続する。研修以外にも、院内「臨床指導委員会」を中心に指導者教育を行っていく。

#### 4 データ

「26年度、27年度（現在）、28年度（予定）の看護基礎教育実習、卒業後教育実習受け入れ一覧」（※別紙資料参照）





平成27年度 看護基礎教育実習病棟別受け入れ一覧

2015.10.31現在

	4月	5月				6月				7月				8月				9月				10月				11月				12月				1月				2月				3月												
		4	11	18	25	1	8	15	22	29	6	13	20	27	3	10	17	24	31	7	14	21	28	5	12	19	26	2	9	16	23	30	7	14	21	28	4	11	18	25	1	8	15	22	29	7	14	21						
8階	神奈川県立よこはま看護専門学校							5	5	5	5																			2	2	2													5	5	5							
	日本赤十字看護大学															5				5	5	5	5	5	5													5	5															
7A	神奈川県立よこはま看護専門学校											5	5	5	5															2	2	2					5	5	5															
	神奈川県立衛生看護専門学校					5	5																			5	5																											
7B	神奈川県立よこはま看護専門学校											5	5	5	5																																							
	創価大学															5																												5	5									
	日本赤十字看護大学																			5								2	2	2																								
7C	神奈川県立よこはま看護専門学校							5																						2	2	2													5	5	5							
	日本赤十字看護大学																																											5	5									
7D	神奈川県立よこはま看護専門学校							5																																								5	5	5				
	日本赤十字看護大学																													2	2	2													5	5								
6A	神奈川県立よこはま看護専門学校											5	5	5	5															2	2	2					5	5	5															
	日本赤十字看護大学																																											5	5	5								
6B	神奈川県立よこはま看護専門学校							5	5	5	5																																					5	5	5				
	創価大学																																											5	5									
6C	神奈川県立よこはま看護専門学校																																															5	5	5				
	日本赤十字看護大学																																											5	5									
6D	神奈川県立よこはま看護専門学校							5																																								5	5	5				
	日本赤十字看護大学																																											5	5	5								
5C(産科)	神奈川県立よこはま看護専門学校					5	5	5												5	5	5																																
	横浜市医師会看護専門学校											5	5																	5	5																							
	横浜市病院協会看護専門学校																																																					
	日本赤十字看護大学																																																					
5D(小児科)	横浜市医師会看護専門学校							4	4																																													
	横浜市病院協会看護専門学校																																																					
	創価大学																																																					
5A(精神科)	神奈川県立衛生看護専門学校							4	4																																													
在宅	神奈川県立よこはま看護専門学校																																																					
一般病棟の学生数合計						0	10	10	2	18	18	32	25	42	42	27	27	49	10	0	0	20	25	25	27	25	50	24	24	20	12	22	18	18	20	13	19	21	5	0	0	40	40	20	35	35	25	0	0	0	0	0		

\*参考

5C(産科)	日本赤十字看護大学大学院 (国際助産学専攻)					2	2																																										
--------	---------------------------	--	--	--	--	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--





## 5-2 院外からの研修受入れ（薬剤部）

### 1 事業概要

- ・ 5 大学（薬学部）と契約し 11 週間の実務実習の受け入れ実施
- ・ 神奈川県病院薬剤師会から 3 名の薬剤師の実務実習受け入れ実施
- ・ JICA（国際医療技術財団 JIMTEF）の薬剤師研修と講義の実施
- ・ 薬薬連携（学生版）実習の実施
- ・ 2 つの薬科大学と契約し早期体験実習の受け入れ実施
- ・ 川崎市内中学生職業体験実習受け入れ

### 2 現状と課題

- ・ 薬学部の実務実習（平成 25 年度は 12 名、平成 26 年度は 10 名、平成 27 年度は 15 名受け入れ）
- ・ 神奈川県病院薬剤師会から 3 名の薬剤師の実務実習を受け入れ（平成 25 年度 3 名、平成 26 年度 3 名、平成 27 年度 3 名受け入れの予定）
- ・ JICA（国際医療技術財団 JIMTEF）については現状未定である
- ・ 薬薬連携（学生版）実習の実施（今年度第 I 期外部 10 名、II 期 10 名の受け入れ予定）
- ・ 川崎市内中学生職業体験実習昨年度は 4 名、今年度も 4 名程度予定
- ・ 今後の薬学実習カリキュラム変更に対応できるように調整が必要となる

### 3 28 年度事業計画

- ・ 5 大学（薬学部）と契約することで実習も積極的に行うことで優秀な人材確保にもつなげていきたい
- ・ 神奈川県病院薬剤師会から 3 名の薬剤師の実務実習を受け入れる
- ・ JICA（国際医療技術財団 JIMTEF）の薬剤師研修と講義を継続する
- ・ 薬薬連携（学生版）実習の実施継続
- ・ 川崎市内中学生職業体験実習受け入れ継続

### 4 データ

- ・ 薬学部の実務実習（平成 25 年度 12 名、平成 26 年度 10 名、平成 27 年度 15 名）
- ・ 神奈川県病院薬剤師会から 3 名の薬剤師の実務実習を受け入れ
- ・ JICA（国際医療技術財団 JIMTEF）（平成 25 年度 4 名、平成 27 年度未定）
- ・ 薬薬連携（学生版）実習の実施  
平成 25 年度（第 I 期 12 名、II 期 12 名、III 期 12 名の受け入れ）  
平成 26 年度（第 I 期 12 名、II 期 10 名、III 期 7 名 受け入れ）  
平成 27 年度（第 I 期 10 名、II 期 10 名受け入れ予定）

### 5-3 院外からの研修受け入れ（リハビリテーション科部）

#### 1 事業概要

リハビリテーション実習生（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）の評価実習・臨床実習の受け入れ。

#### 2 現状と課題

今年度は、前年に引き続き理学療法部門での評価及び臨床実習生の受け入れを行ない作業療法部門でも臨床実習生を受け入れた。言語聴覚療法部門では、スタッフの不足により実習生の受け入れは行われていない状況である。

次年度は、理学療法部門及び作業療法部門の実習生の受け入れを継続し、受け入れ実習校、実習生数を増加する予定である。充実した実習指導の為、実習指導者のレベルアップを図り、言語聴覚部門では実習生受け入れの準備をして行く。

#### 3 平成 28 年度事業計画

##### ①リハビリテーション実習生の受け入れ（予定）

理学療法実習生	5名
作業療法実習生	2名
言語聴覚療法実習生	未定

##### ②実習指導者レベルアップ研修

#### 4 データ

リハビリテーション実習生受け入れ

平成 25 年度：理学療法評価実習生	1名	理学療法臨床実習生	2名
平成 26 年度：理学療法評価実習生	1名	理学療法臨床実習生	2名
作業療法臨床実習生	1名		
平成 27 年度：理学療法評価実習生	1名	理学療法臨床実習生	2名
作業療法評価実習生	1名	作業療法臨床実習生	1名

## 6 設備維持・点検整備計画

## 6-1 設備維持計画

別紙のとおり

定期保守業務(外注委託)年間予定表

平成28年(2016年)度

施設課提出用

横浜市立みなと赤十字病院

業 務 項 目	実施回数	実 施 月												備考
		平成28年(2016年)						平成29年(2017年)						
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1 消防設備等点検業務	2回/年				○							○		
2 特高受変電設備定期検査	2回/年			○						○				
3 高圧受変電設備定期検査	1回/年							○						
4 無停電電源設備保守及び定期点検	1回/年							○						
5 直流電源設備保守及び定期点検	1回/年							○						(UPS)
6 中央監視設備保守及び定期点検	1回/年							○						(非常用照明)
7 自家用発電設備保守及び定期点検(1号機)	2回/年			○						○				
(2号機)	2回/年			○						○				
(3号機)	2回/年			○						○				
8 煤煙測定	1回/年							○						電力監視装置
9 昇降機設備保守及び定期検査 三菱電機ビルテクノサービス	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	定期検査年1回(検)
横浜エレベータ	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	定期検査年1回(検)
日本エレベータ	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	定期検査年1回(検)
10 ボイラー・圧力容器性能検査及び事前整備	各1回/年				○	(検)								サブシートあり
11 ゴンドラ設備保守及び性能検査	4回/年		○		○				○	(検)			○	サブシートあり
12 建築設備定期検査	1回/年							○						
13 特殊建築物定期検査	1回/年							○						
14 簡易専用水道検査	1回/年								○					
15 受水槽・高架水槽定期清掃	1回/年						○							
16 飲料水水質検査	2回/年						○						○	サブシートあり
17 冷却塔設備保守及び水質管理	毎月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	サブシートあり
18 吸収式冷凍機定期点検	2回/年	○				○							○	4月シーズンIN・8月シーズンON点検
吸収式冷凍機定期整備	1回/年								○					
吸収式冷凍機凝縮器チューブ洗浄	1回/年												○	
19 自動ドア保守及び定期点検	2回/年				○							○		
20 害虫定期駆除	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	サブシートあり
21 厨房グリスフィルター定期清掃業務	4回/年			○			○			○			○	サブシートあり
22 厨房グリストラップ定期清掃業務	8回/年	○	○		○		○	○	○	○	○		○	サブシートあり
23 駐車場管制設備保守及び定期点検	2回/年				○						○			
24 リニア搬送設備保守及び定期点検	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
25 排水処理設備定期点検(検査・透析・ボイラー)	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
26 空調自動制御点検	3回/年		○						○		○			サブシートあり
27 空調機・FCUプレフィルター定期清掃	2回/年			○		◎				○				◎(8月)防災センター所員にて実施予定
28 汚水雑排水槽定期清掃	2回/年		○						○					サブシートあり
29 雑用水槽定期清掃	1回/年			○										

定期保守業務(外注委託)年間予定表

平成28年(2016年)度

○ 整備・点検 ◎ 法令点検・性能点検

横浜市立みなと赤十字病院

業 務 項 目	外注業者名	実施回数	実 施 月												備考
			平成28年(2016年)			平成29年(2017年)									
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
10 ボイラー・圧力容器性能検査及び事前整備															工程上の都合で前倒しする場合あり。
熱交換器 4台 (HE-1-1 ~ 4)	曾根原工設(株)	1回/年				○	有効期限 8/4まで								
貯湯槽 2台 (THS-1-1,2)	曾根原工設(株)	1回/年				○	有効期限 8/27まで								
予熱槽清掃 2台 (THS-2-1,2)	曾根原工設(株)	1回/年				○									
調乳ビン滅菌器 1台	曾根原工設(株)	1回/年				○	有効期限 8/27まで								
中材滅菌器3台	メーカー	1回/年											※◎	有効期限 3/8まで	※病院側直接対応
感染ゴミ滅菌器2台	-	-				休止中	有効期限 8/27まで								
ガスタービン排ガスボイラー 1台	三菱電機PE(株) (ヤンマー)	1台/年				○	有効期限 8/4まで								
性能検査 (全8台)	(社)日本ボイラ協会	1回/年				◎									
11 ゴンドラ設備保守及び性能検査															
ゴンドラ設備保守 (自主) 点検	サンセイ(株)	4回/年		○		○				○				○	
性能検査	(社)日本クレーン協会	1回/年								◎	有効期限 12/4まで				
16 飲料水水質検査															
給湯・飲料水 (11項目)	ヒロエンジニアリング(株)	1回/年												○	
給湯・飲料水 (28項目)	ヒロエンジニアリング(株)	1回/年						○							
給湯 (レジオネラ属菌)	ヒロエンジニアリング(株)	1回/年												○	
機械浴槽・沐浴槽 (レジオネラ属菌)	ヒロエンジニアリング(株)	1回/年				○									
20 害虫防除点検															
(共用部) ゴミ処理施設・駐車場	(株)シーアイシー	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	防除種目 ネズミ・衛生害虫
(糧食施設) 栄養課・喫茶・レストラン・各パントリー	(株)シーアイシー	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	防除種目 ネズミ・衛生害虫
各排水槽・汚水槽	(株)シーアイシー	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	防除種目 衛生害虫
(病棟) ナースステーション	(株)シーアイシー	2回/年				○						○			防除種目 ネズミ・衛生害虫
給湯室・外来施設	(株)シーアイシー	2回/年				○						○			防除種目 ネズミ・衛生害虫
湧水槽・雨水槽	(株)シーアイシー	2回/年				○						○			防除種目 衛生害虫
22 厨房グリストラップ定期清掃業務															
厨房エリア	(有)アクア・サポート・スタッフ	6回/年		○		○		○		○		○		○	
仕込エリア	(有)アクア・サポート・スタッフ	4回/年	○			○			○			○			
洗浄エリア	(有)アクア・サポート・スタッフ	4回/年	○			○			○			○			
21 厨房グリスフィルター定期清掃業務															
厨房アクリルシステム定期清掃業務	栄宏プロビジョン	4回/年			○			○			○			○	
30 汚水雑排水水槽清掃															
汚水排水槽清掃	(有)アクア・サポート・スタッフ	2回/年		○						○					
厨房排水槽	(有)アクア・サポート・スタッフ	2回/年		○						○					
26 空調自動制御点検															
冷暖房切替点検	川本工業(株) (日本電技)	2回/年		○						○					※陽気により前後あり
総合点検	川本工業(株) (日本電技)	1回/年										○			

○ 整備・点検 ◎ 性能点検

横浜市立みなと赤十字病院

業 務 項 目	外注業者名	実施回数	実 施 月												備考
			平成28年(2016年)						平成29年(2017年)						
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
17 冷却塔設備保守及び水質管理															※契約上の水質検査
① 冷却水補給水 (一般分析)	クリタビルテック㈱	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	レジオネラ属菌×12検体のみ
② CT-1系冷却水															その他一般分析は任意実施分
分析(稼働系統)	クリタビルテック㈱	4回/年			○	○	○	○							(薬品納入に含む)
レジオネラ菌分析	クリタビルテック㈱	2回/年				○		○							
③ CT-2系冷却水															※冷却水、GT・GE・BS機器は稼働して
分析(稼働系統)	クリタビルテック㈱	4回/年			○	○	○	○							いるもののみ
レジオネラ菌分析	クリタビルテック㈱	2回/年				○		○							
④ CT-3系冷却水															
分析(稼働系統)	クリタビルテック㈱	10回/年	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	
レジオネラ菌分析	クリタビルテック㈱	2回/年					○					○			
⑤ G-1系冷却水															
分析(稼働系統)	クリタビルテック㈱	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
レジオネラ菌分析	クリタビルテック㈱	2回/年					○					○			
⑥ G-2系冷却水															
分析(稼働系統)	クリタビルテック㈱	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
レジオネラ菌分析	クリタビルテック㈱	2回/年					○					○			
⑦ G-3系冷却水															
分析(稼働系統)	クリタビルテック㈱	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
レジオネラ菌分析	クリタビルテック㈱	2回/年					○					○			
⑧ 軟水・軟水給水 一般分析	クリタビルテック㈱	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
⑨ 貫流ボイラーBS1-1~1-7 分析(稼働系統)	クリタビルテック㈱	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
⑩ ガスタービン 排ガスボイラー 分析(稼働系統)	クリタビルテック㈱	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	GT×1台
⑪ ガスエンジン 排ガスボイラー 分析(稼働系統)	クリタビルテック㈱	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	GE×2台
薬品納入量 (冷却塔及びボイラー用)															※契約内納入数量
① 冷却水処理剤(トップコールT-917)	クリタビルテック㈱	都度													744kg/年
② スライムコントロール剤(クリサワーW-250)	クリタビルテック㈱	都度													50kg/年
③ ボイラ缶水処理剤(クリマチックNS-202)	クリタビルテック㈱	都度													1980kg/年
④ 軟水生成用(ボイラソルト)	クリタビルテック㈱	都度													525kg/年

定期点検業務(防災センター)年間予定表

平成28年(2016年)度

横浜市立みなと赤十字病院

業 務 項 目	実施回数	平成28年(2016年)												備考
		実 施 月												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
<b>[衛生設備]</b>														
1 貯水槽点検(受水槽、高架水槽)(電極切替)	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
2 雑用水補給水ポンプ切替及び水槽点検	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3 給水設備配管等点検	1回/年			○										
4 ポンプ稼動時間測定(上水、雑用水、揚水、冷水、他)	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5 ポンプ点検(汚水、雑用水、湧水、揚水)	4回/年			○			○			○			○	
6 水槽点検(汚水、雑用水、湧水)	4回/年			○			○			○			○	
7 トイレ機器点検及び自動水栓点検	3回/年		○				○				○			
<b>[空調設備]</b>														
1 ボイラー自主点検	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
2 ボイラー各メーター検針、集計	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3 圧力容器自主検査(排ガスボイラー、熱交換器)(含む衛生、貯湯槽、予熱槽、オートループ)	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
4 冷却塔点検及びファンベース切替(年2回 冷却塔清掃)	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5 冷温水ヘッダー点検(含、膨張水槽)	1回/年								○					
6 空調ポンプ点検	1回/年								○					
7 空調機、外調機点検	4回/年		○			○			○			○		
8 パッケージ型空調機点検	4回/年			○			○			○			○	
9 給排機ファン点検(グリース補充含む)	2回/年						○						○	
10 加湿器シーズンイン・中間・オフ点検	5回/年	○					○			○	○	○	○	
11 7D 空調プレフィルタ-洗浄(7D-25~27,7D-02,10,11,16,17)	6回/年	○		○		○		○		○		○		
12 外調機プレフィルタ-交換、洗浄	6回/年		○		○		○		○		○		○	
13 FUフィルタ-交換、洗浄	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
14 OP室RAプレフィルタ-交換、洗浄	4回/年		○			○			○			○		
15 3FOP室・ICU、5C・D、2F滅菌室FFCUプレフィルタ-交換、洗浄	3回/年		○				○				○			
<b>[電気設備]</b>														
1 看板灯・外灯外観点検及びタイマー作動確認	6回/年		○		○		○		○		○		○	
2 分電盤点検	2回/年	○						○						
3 動力盤点検	2回/年	○						○						
4 受変電設備点検	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5 発電機点検	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
6 電気時計点検	1回/年			○										
7 アイソレーション点検及びICU、HCUフィルタ-ユニット差圧測定	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
8 OP室、透析室 殺菌灯 フィルタ-交換	3回/年				○				○				○	
9 危険物施設点検(地下タンク、屋内タンク、一般取扱所)	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	漏洩検知管点検、油量実測検尺 他
<b>[その他]</b>														
1 ガス供給設備(ガバナ室供給配管機器点検)	1回/年										○			
2 消防設備自主点検(スプリンクラー、泡消火設備、消火器、消火栓)	6回/年	○	○		○			○	○			○		4,7,10,2月 消火器 5,7,11,2月 消火栓
3 各階散水栓タイマー点検・調整	4回/年		○						○			○		
4 在庫管理	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5 テナント検針	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
6 自動ドア点検	6回/年		○		○		○		○		○		○	
7 電気錠・操作盤点検	1回/年					○								
8 8Fハトリ湯温調査(60℃以上)、配管エア抜き	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
9 CE月例点検	12回/年	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
10 ルーフドレン清掃	6回/年	○		○		○		○		○		○		
11 発電機、ボイラー煙道点検	1回/年			○										
12 発電機G1,G2 給気ガラリ清掃	2回/年		○							○				
13 探痰ブース点検	1回/年									○				
14 冷却塔 補給水メーター検針(減免報告)	6回/年		○		○		○		○		○		○	
15 PH1F ヘリポート点検	1回/年				○									

## 6-2 平成28年度設備点検整備計画

(単位:円)

	税別見積金額	消費税 (8%相当)額	合計額	備考
1 吸収冷凍機冷却塔充填 材更新工事	6,700,000	536,000	7,236,000	
2 電気錠設備更新整備	18,827,200	1,506,176	20,333,376	
合計	25,527,200	2,042,176	27,569,376	

## 7 医療機器整備計画・外部委託

## 7-1 医療機器整備計画

平成28年度

### 医療機器の整備計画

(1) 医療機器の整備計画(購入予定価格500万円以上)

	部門名ごとに整理 (中央・看護・管 理・診療等)	機器名称	用途	新規・更新
1	未定	未定	未定	未定

## 7-2 外部委託

### 1. 対象業務

別紙「外部業務委託一覧表」のとおり

### 2. 現状と課題

外部委託を実施している業務については、その業務ごとに、関係部署が毎年評価を行い、現状を把握するとともに、状況によっては業務改善計画の提出を求めている。

改善計画については、関係部署において再評価を行い、契約更新の判断となっている。26年度中の評価は概ね良好であった。

### 3. 28年度事業計画

外部に業務委託している病院業務は多様であるが、患者への安全性、サービスに関わる業務が多く、関係法令を順守することはもとより、業務の質の向上が求められる。28年度においても受託会社の評価を継続し、その結果を元に指導、管理に努める。

## 外部業務委託一覧表(平成27年度)

※上半期で支払金額が合計100万円以上のもの

	委託業務の名称	主な業務内容	受託者 (会社名)
1	食事療養提供業務	患者用給食の調理、給食材料管理補助、食器洗浄等衛生管理補助、配膳・下膳業務	エームサービス 株式会社
2	中央滅菌材料室・手術室器材の洗浄・滅菌業務	使用済器材の回収・洗浄・滅菌・供給業務	日本ステリ 株式会社
3	検体検査業務	検体検査業務	株式会社 ビー・エム・エル
4	検体検査業務	検体検査業務	株式会社 エスアールエル
5	患者用ベッド洗浄業務	ベッド等の清拭・定期点検業務	株式会社 柴橋商会
6	寝具貸借及び洗濯業務	患者用寝具・職員当直用寝具貸借業務、洗濯全般業務	株式会社 サンビームランドリー
7	白衣等リース業務	看護師、看護助手、SPDの白衣及びタオルのリース	株式会社 柴橋商会
8	白衣等リース業務	看護師、看護助手、SPD以外の白衣のリース	株式会社 サンビームランドリー
9	SPD物流管理サービス業務	医療材料の物流管理業務	ホスピタルパートナーズ 株式会社
10	医薬品院内物流管理業務	購買管理補助業務 薬品在庫管理業務 配置定数薬の補充管理業務 搬送業務 等	東邦薬品 株式会社
11	医事関連業務	外来部門の計算・受付・ケア業務及び保険請求関連業務	株式会社 ソラスト
12	健診センター関連業務	受診者対応、会計・計算業務等	株式会社 ソラスト
13	医療情報センター関連業務	医事統計の作成、データ分析、システム障害対応等	株式会社 ソラスト
14	医療連携センター関連業務	紹介患者の受診予約、診療情報提供書の保管・管理、外来報告書の保管、管理等	株式会社 ソラスト
15	病棟クラーク業務	入退院手続、書類作成、入院患者の面会者対応	株式会社 日本教育クリエイト
16	院内保育所運営業務	職員子女の保育業務	株式会社 ホビーズコーポレーション
17	施設管理	施設設備の運転及び点検業務	高砂丸誠エンジニアリングサービス 株式会社
18	警備業務	院内外の警備業務	株式会社 KSP
19	清掃業務	外回り外来部門・病棟・手術室・事務室等院内清掃業務	高砂丸誠エンジニアリングサービス 株式会社
20	産業廃棄物処理業務	院内から出されるゴミの収集運搬及び処理業務	株式会社 神奈川保健事業社
21	一般廃棄物収集運搬業務	院内から出されるゴミの収集運搬及び処理業務	株式会社 神奈川保健事業社
22	感染性廃棄物収集運搬処理業務	院内から出される感染性廃棄物の収集運搬及び処理業務	株式会社 トキヨ薬品化工
23	医薬品(医療ガス)供給業務	医療用液体酸素・医療用液体窒素・医療用酸素ガス等の供給業務	株式会社 イワサワ
24	統計解析業務	ARMS及び喘息日誌症例データ解析	ウェザー・サービス 株式会社
25	データ保管業務	診療録保管業務	株式会社 寿製作所
26	事務部門関連業務	人事課・医療社会事業課事務業務	日総ブレイン 株式会社
27	緑地維持管理業務	院内緑地の剪定・除草・芝生刈り業務	株式会社 愛花園
28	被ばく線量測定業務	クイクセルバッジ・リングバッジ測定	長瀬ランダウア 株式会社
28	医療廃棄物処理業務	医療廃棄物処理業務	横浜綿布工業 株式会社

\* 派遣、保守に関する業務、倉庫借用に伴う業務を除く

## 8 経営計画

# 経営計画

## 損益計算書(中期経営計画)

### 収益

28年度 計画

(単位:千円)

項目	年度	26決算 (A)	27見込 (B)	増減 (B)-(A)	増加率% (B-A)/A*100	28予算 (C)	増減 (C)-(B)	増加率% (C-B)/B*100	29予算 (D)	増減 (D)-(C)	増加率% (D-C)/C*100
みなと赤十字病院事業収益		18,907,135	19,737,233	830,098	4.4%	20,088,995	351,763	1.8%	20,547,692	458,696	2.3%
医業収益		18,045,673	18,980,665	934,992	5.2%	19,341,297	360,633	1.9%	19,786,147	444,850	2.3%
入院分(入院診療収益)		13,902,115	14,672,415	770,300	5.5%	14,951,191	278,776	1.9%	15,295,068	343,877	2.3%
患者延べ数(人)		194,773	194,191	-582	-0.3%	194,191	0	0.0%	194,191	0	0.0%
1日平均(人)		534	531	-3	-0.6%	532	1	0.3%	532	0	0.0%
診療単価(円)		71,376	75,557	4,181	5.9%	76,992	1,436	1.9%	78,763	1,771	2.3%
病床利用率(%)		84.2%	83.7%	-0	-0.6%	83.9%	0	0.3%	83.9%	0	0.0%
外来分(外来診療収益)		3,342,358	3,507,241	164,883	4.9%	3,573,879	66,638	1.9%	3,656,078	82,199	2.3%
患者延べ数(人)		281,169	281,673	504	0.2%	281,673	0	0.0%	281,673	0	0.0%
1日平均(人)		1,152	1,159	7	0.6%	1,154	-5	-0.4%	1,150	-5	-0.4%
診療単価(円)		11,887	12,451	564	4.7%	12,688	237	1.9%	12,980	292	2.3%
室料差額収益		456,781	474,436	17,655	3.9%	483,451	9,014	1.9%	494,570	11,119	2.3%
保健予防活動収益		263,933	278,928	14,995	5.7%	284,228	5,300	1.9%	290,765	6,537	2.3%
その他の医業収益		119,475	120,637	1,162	1.0%	122,929	2,292	1.9%	125,756	2,827	2.3%
保険等査定減		-38,988	-72,992	-34,004	87.2%	-74,379	-1,387	1.9%	-76,090	-1,711	2.3%
その他収益		861,462	756,568	-104,894	-12.2%	747,698	-8,870	-1.2%	761,544	13,846	1.9%
医業外収益		768,256	737,758	-30,498	-4.0%	737,758	0	0.0%	751,420	13,662	1.9%
(再掲)運営費補助金等収益		471,313	463,756	-7,557	-1.6%	463,756	0	0.0%	472,344	8,588	1.9%
医療社会事業収益		13,690	9,940	-3,750	-27.4%	9,940	0	0.0%	10,124	184	1.9%
特別利益		79,516	8,870	-70,646	-88.8%	0	-8,870	-100.0%	0	0	-

### 費用

項目	年度	26決算 (A)	27見込 (B)	増減 (B)-(A)	増加率% (B-A)/A*100	28予算 (C)	増減 (C)-(B)	増加率% (C-B)/B*100	29予算 (D)	増減 (D)-(C)	増加率% (D-C)/C*100
みなと赤十字病院事業費用		18,831,551	19,463,551	632,000	3.4%	19,803,213	339,663	1.7%	20,258,857	455,644	2.3%
医業費用		18,347,051	18,971,163	624,112	3.4%	19,322,053	350,890	1.8%	19,760,310	438,256	2.3%
材料費		4,735,216	5,187,114	451,898	9.5%	5,285,669	98,555	1.9%	5,407,240	121,570	2.3%
医薬品費		1,732,861	1,799,549	66,688	3.8%	1,833,740	34,191	1.9%	1,875,916	42,176	2.3%
給食材料費		121,451	127,649	6,198	5.1%	130,074	2,425	1.9%	133,066	2,992	2.3%
診療材料費		2,787,328	3,156,789	369,461	13.3%	3,216,768	59,979	1.9%	3,290,754	73,986	2.3%
医療消耗器具備品費		93,576	103,127	9,551	10.2%	105,086	1,959	1.9%	107,503	2,417	2.3%
給与費		8,874,594	9,106,150	231,556	2.6%	9,343,748	237,598	2.6%	9,587,545	243,797	2.6%
委託費		1,746,694	1,777,293	30,599	1.8%	1,777,293	0	0.0%	1,810,206	32,913	1.9%
設備関係費		1,987,394	1,893,607	-93,787	-4.7%	1,898,275	4,668	0.2%	1,919,416	21,142	1.1%
減価償却費		821,435	756,633	-64,802	-7.9%	756,633	0	0.0%	756,633	0	0.0%
器機賃借料		6,465	5,864	-601	-9.3%	5,923	59	1.0%	6,032	110	1.9%
指定管理者負担金他		671,095	670,204	-891	-0.1%	670,204	0	0.0%	682,615	12,411	1.9%
修繕費		268,015	211,058	-56,957	-21.3%	213,169	2,111	1.0%	217,116	3,948	1.9%
器機保守料		219,425	249,187	29,762	13.6%	251,679	2,492	1.0%	256,340	4,661	1.9%
その他		959	661	-298	-31.1%	668	7	1.0%	680	12	1.9%
研究研修費		57,992	56,398	-1,594	-2.7%	56,962	564	1.0%	58,017	1,055	1.9%
経費		945,160	950,601	5,441	0.6%	960,107	9,506	1.0%	977,887	17,780	1.9%
通信費		20,459	16,114	-4,345	-21.2%	16,275	161	1.0%	16,577	301	1.9%
消耗品費		81,522	91,533	10,011	12.3%	92,448	915	1.0%	94,160	1,712	1.9%
水道光熱費		496,878	482,175	-14,703	-3.0%	486,997	4,822	1.0%	496,015	9,018	1.9%
賃借料		140,276	154,453	14,177	10.1%	155,998	1,545	1.0%	158,886	2,889	1.9%
租税公課		11,824	29,291	17,467	147.7%	29,584	293	1.0%	30,132	548	1.9%
その他		194,201	177,035	-17,166	-8.8%	178,805	1,770	1.0%	182,117	3,311	1.9%
医業外費用		327,486	341,943	14,456	4.4%	337,966	-3,977	-1.2%	352,702	14,736	4.4%
支払利息		47,814	21,822	-25,993	-54.4%	17,845	-3,977	-18.2%	32,581	14,736	82.6%
その他		279,672	320,121	40,449	14.5%	320,121	0	0.0%	320,121	0	0.0%
医療奉仕費用		136,712	143,194	6,482	4.7%	143,194	0	0.0%	145,846	2,652	1.9%
特別損失		20,301	4,994	-15,307	-75.4%	0	-4,994	-	0	0	-
法人税等		0	2,257	2,257	-	0	-2,257	-	0	0	-

\* 収益比とは、各費用の対医業収益比率のことで、(各費用)/(医業収益)で算出。

経常損益(特別収支を除いたもの)	16,369	269,806	253,437	1548.2%	285,782	15,976	5.9%	288,834	3,052	1.1%
医業損益(医業収支)	-301,378	9,502	310,880	-103.2%	19,244	9,742	102.5%	25,837	6,593	34.3%
純損益(総収支)	75,585	273,682	198,098	262.1%	285,782	12,100	4.4%	288,834	3,052	1.1%

## 経営計画

### 損益計算書資本的(中期経営計画)

(単位:千円)

	26決算 (A)	27見込 (B)	増 減 (B) - (A)	増加率% (B-A)/A*100	28予算 (C)	増 減 (C) - (B)	増加率% (C-B)/B*100	29予算 (D)	増 減 (D) - (C)	増加率% (D-C)/C*100
資本的収入	940,044	865,768	-74,275	-7.9%	826,555	-39,213	52.8%	950,271	123,716	-315.5%
資本的収入	940,044	865,768	-74,275	-7.9%	826,555	-39,213	52.8%	950,271	123,716	-315.5%
固定負債	4,284	48,606	44,321	1034.5%	0	-48,606	-109.7%	0	0	0.0%
その他資本収入	935,759	817,163	-118,597	-12.7%	826,555	9,392	-7.9%	950,271	123,716	1317.2%

資本的支出	940,044	865,768	-74,275	-7.9%	826,555	-39,213	52.8%	950,271	123,716	-315.5%
資本的支出	940,044	865,768	-74,275	-7.9%	826,555	-39,213	52.8%	950,271	123,716	-315.5%
固定資産	400,199	432,850	32,651	8.2%	450,000	17,150	52.5%	450,000	0	-
借入金等償還	216,000	237,600	21,600	10.0%	237,600	0	0.0%	237,600	0	-
リース未払金支払	323,844	195,318	-128,526	-39.7%	138,955	-56,363	43.9%	262,671	123,716	-219.5%